



内閣府

～美ら島の未来を拓く～沖縄総合事務局
定例記者会見（１２月）

平成２８年１２月１日（木）１６：３０～
沖縄総合事務局６階「特別会議室」

【発表事項】

- １．『離島の高校生に関する意識調査』について
- ２．『財政教育プログラム「沖縄初開催（琉球大学教育学部附属中学校）」
について
- ３．『国有財産の売払い（一般競争入札）』について
- ４．『「活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会」の開催』
について
- ５．『「北部ダムツーリズム」の推進に向けた旅行業界との現地見学会を開催』
について
- ６．『平成２８年度 年末年始の輸送等に関する安全総点検の実施』について

※参考資料「２０１６ 沖縄総合事務局十大ニュース」

出席者 沖縄総合事務局

局 長	能 登 靖
次 長	菊 地 春 海
総務部長	山 谷 英 之
財務部長	山 田 康 博
農林水産部長	遠 藤 順 一
開発建設部総務調整官	久保田 秀 一
運輸部長	嘉 村 徹 也



離島の高校生に関する意識調査

2016.12.1 定例記者会見
沖縄総合事務局総務部

○調査趣旨

本年6月19日に公職選挙法等が一部改正され、選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられ、高校在学中に選挙で投票する可能性がある。このため今後は、高校生についても今まで以上に自分が暮らしている地域等のあり方や未来について真剣に調べ、考え、話し合うこと等の機会が増えることが想定される。

また、島嶼地域である沖縄においては、大学進学や就職等する際には、県内外に進学等するケースもあるが、特に離島については、島内に大学等がないことから島からでなければいけないといった現状があり、高齢化や過疎化を防ぐ或いは現在の島の状況を維持、発展をさせるためには、生まれ育った島へのUターンや島外からのIターンなど、人(特に若者)の定住が必須であり、定住を促進するためには、島の産業や雇用、住環境等を整備、強化することが求められる。

そこで本調査では、島を一旦離れたとしても島へのUターンの期待を望むことができる「離島の高校生(3年生)」を対象に、島の現状、島に対する思い、島の将来等についてどのように考え、また、どのような希望やニーズをもっているかなどについて調査するとともに、調査結果を今後の離島振興に役立てることを目的に調査を実施。

【アンケート調査の実施概要】

- (1) 調査期間 平成28年9月上旬～9月中旬
- (2) 調査対象 県内離島の高校3年生
(計8校:久米島、宮古島、石垣島)
- (3) 回答数:965(回収率100%)

○離島の高校の現況等 (P2)

地 区	高校名	学科	3年生 定員数	計	3年生 在籍数	計	回答数
久米島地区	久米島高校	普通	80	120	60	85	81
		園芸	40		25		
宮古地区	宮古高校	普通	200	280	197	274	271
		理数	80		77		
	宮古工業高校	自動車機械	40	120	27	77	75
		電気情報	40		28		
		生活情報	40		22		
		生物生産	40		26		
	宮古総合実業高校	食と環境	40	200	37	154	146
		生活福祉	40		35		
		海洋科学	40		17		
		商業	40		39		
八重山地区	伊良部高校	普通	40	40	17	17	17
	八重山高校	普通	240	240	233	233	218
		機械電気	40		30		
	八重山商工高校	情報技術	40	160	24	120	79
		商業	80		66		
	八重山農林高校	アグリフード	40	160	22	88	78
		グリーンライフ	40		19		
		フード・プロ	40		15		
		デュース ライフスキル	40		32		

※調査時期に部活動の大会等により実施できなかった者を除く。

1. アンケート調査結果概要

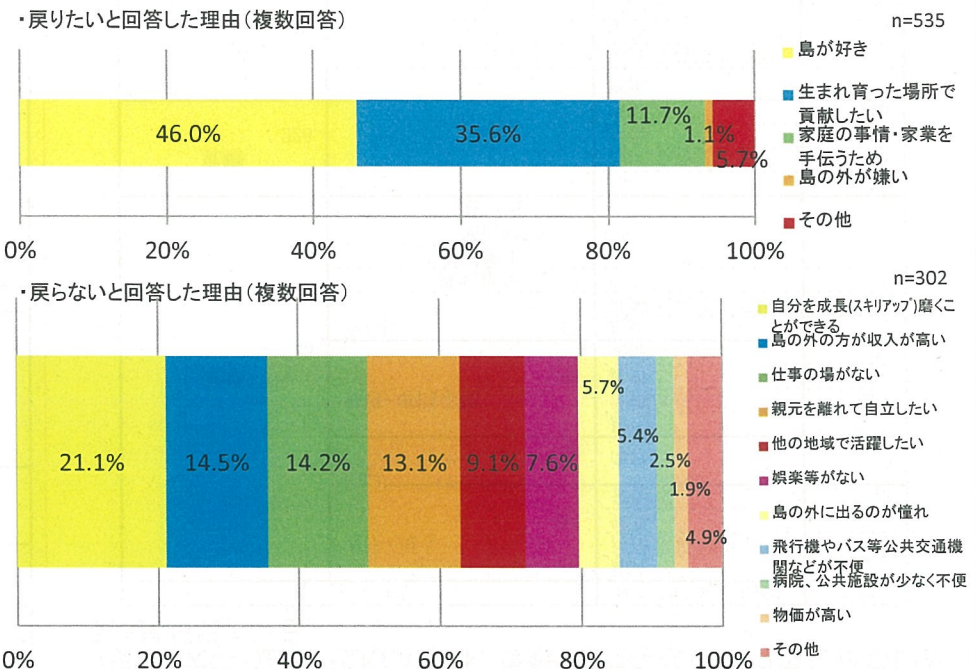
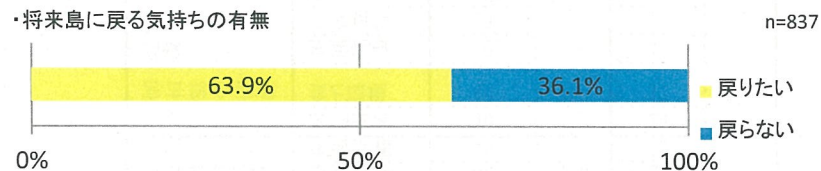
①高校卒業後の進路及びその所在地について (P6)

- ・卒業後の進路については、全体の75.2%の生徒が進学を希望。
- ・また、大学・短大、就職は県外、専修・専門学校は県内の方が多いという結果が出ている。

卒業後の進路		所在地(住む場所)	人数
進学	大学・短大	島内	8
		沖縄本島等の県内	110
		県外	256
		未記入	43
	留学	海外	10
	専修・専門学校	島内	7
		沖縄本島等の県内	138
		県外	118
		未記入	23
	その他 (内訳)	島内	2
		沖縄本島等の県内	3
		県外	5
		未記入	0
就職		島内	38
		沖縄本島等の県内	55
		県外	120
		未記入	13
その他		島内	2
		沖縄本島等の県内	3
		県外	3
		未記入	5

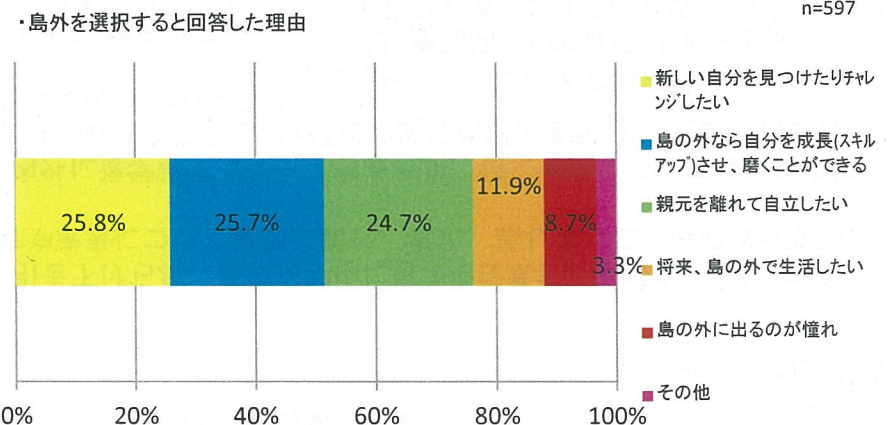
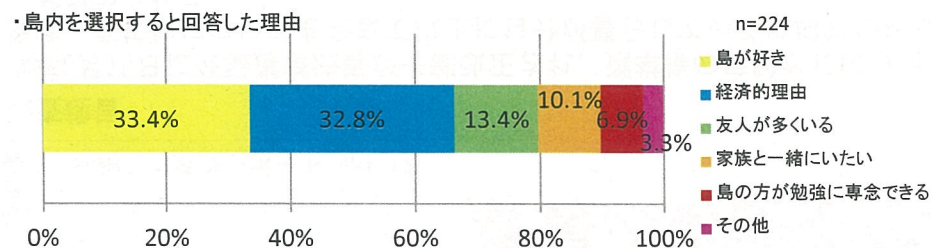
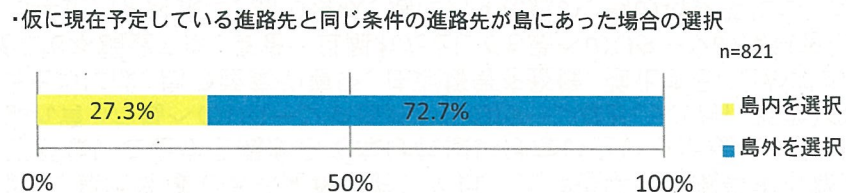
②将来島に戻る気持ちの有無及びその理由 (P 8)

- ・将来、島に戻る気持ちの有無は、63.9%が「戻りたい」という回答となっている。
- ・「戻りたい」の理由は、「島が好き」が46%、次いで「生まれ育った場所で貢献したい」が35.6%となっている。
- ・「戻らない」の理由は、「自分を成長(スキルアップ)、磨くことができる」が21.1%、「島の外の方が収入が高い」が14.5%、「仕事場がない」が14.2%、「親元を離れて自立したい」が13.1%となっている。



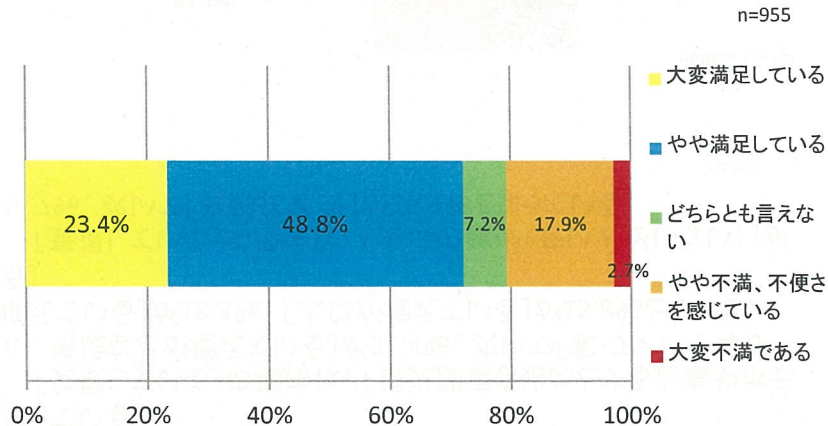
③仮に現在予定している進路先と同じ条件の進路先が島にあった場合の選択及び理由 (P 9)

- ・仮に現在予定している進路先と同じ条件の進路先が島にあった場合であっても、72.7%が「島外を選択する」という回答となっている。
- ・「島外を選択する」の理由は、「新しい自分を見つけたり、何かチャレンジしたい」、「自分を成長(スキルアップ)させ、磨くことができる」、「親元を離れて自立したい」など、自身のスキルアップや向上心、自立心的なものが76.2%となっている。
- ・「島内を選択する」の理由は、「島が好き」が33.4%、次いで「経済的理由」が32.8%となっている。

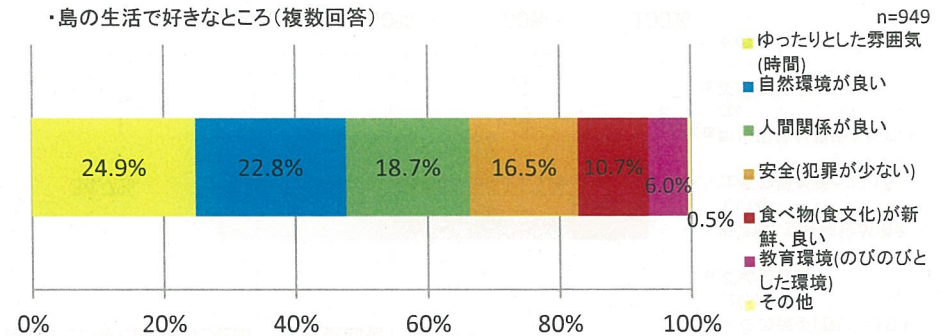


④島の生活の満足度について (P10)

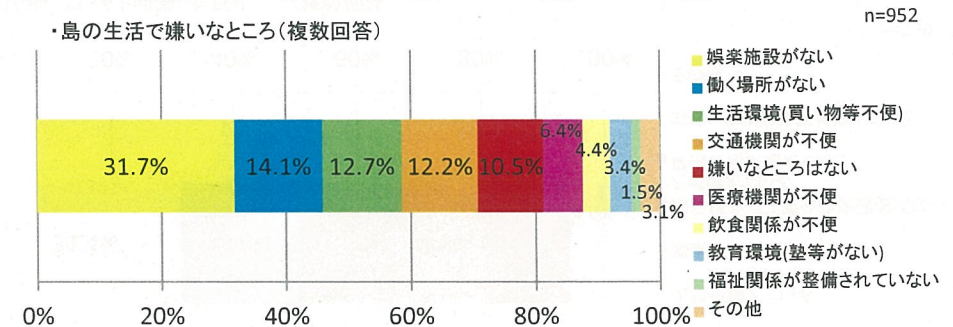
・島の生活の満足度は、「満足している」が23.4%、「やや満足している」が48.8%で、比較的満足度は高い回答となっている。



・島の生活で好きなところ(複数回答)



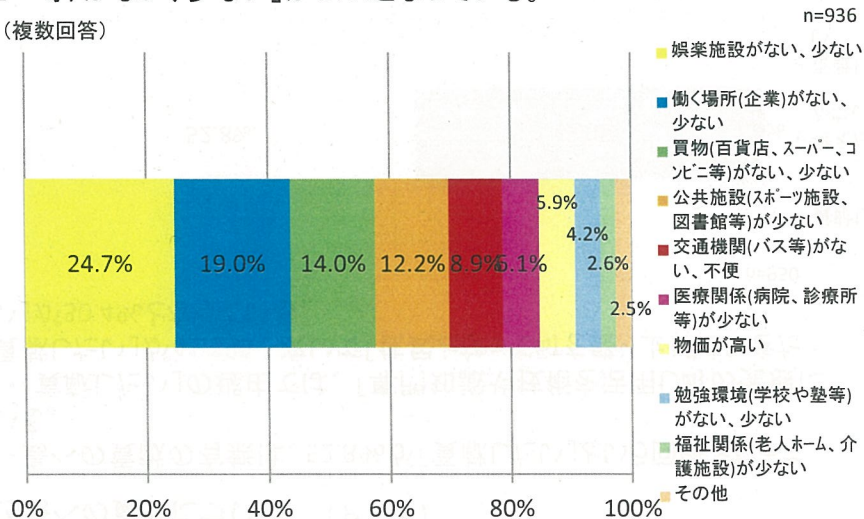
・島の生活で嫌いなところ(複数回答)



⑤島が持っている課題について (P11)

・島がもっている課題は、「娯楽施設がない、少ない」が24.7%、次いで「働く場所(企業)がない、少ない」が19%、買い物(百貨店、スーパー、コンビニ等)がない、少ない」が14%となっている。

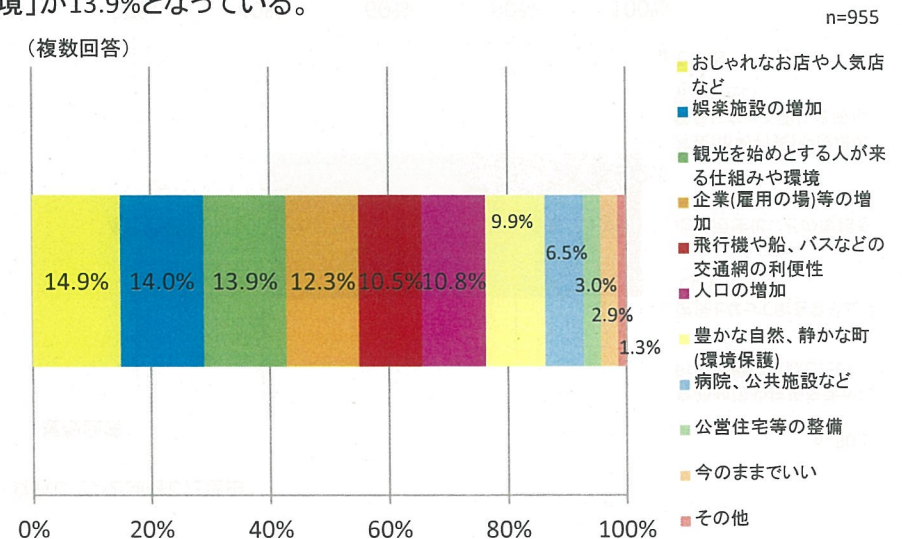
(複数回答)



⑥島の発展のために何が必要か (P13)

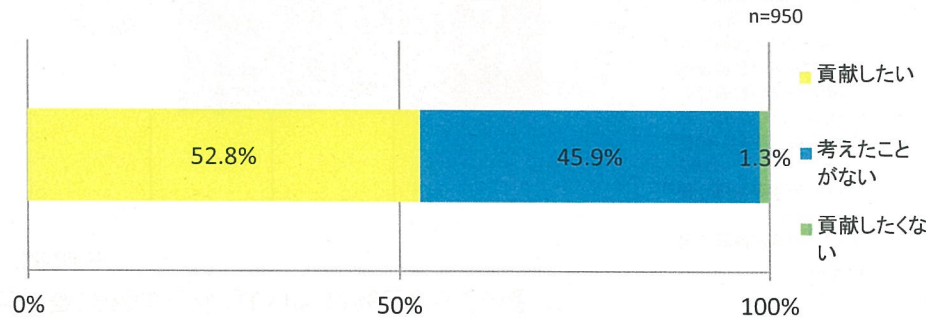
・島の発展のためには、「おしゃれなお店や人気店など」が14.9%、次いで「娯楽施設の増加」が14%、「観光を始めとする人が来る仕組みや環境」が13.9%となっている。

(複数回答)



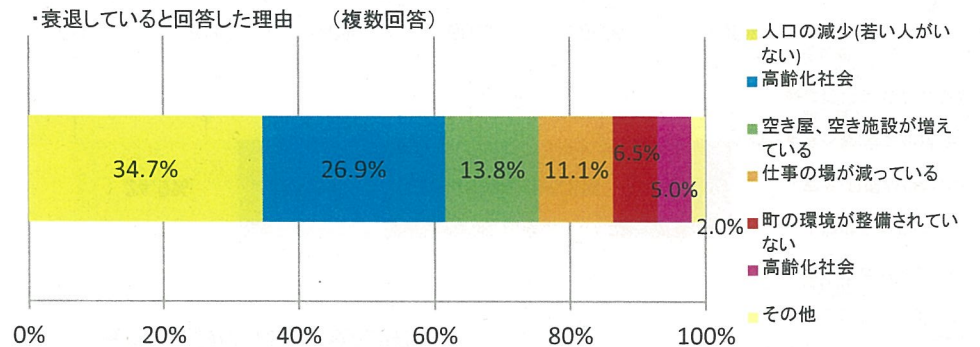
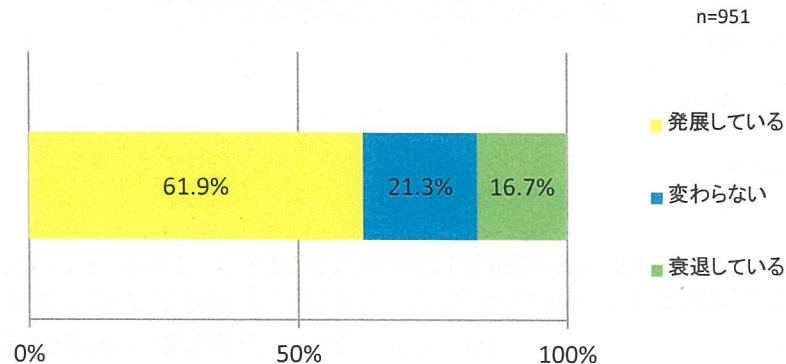
⑦島への貢献について (P14)

- ・島への貢献の有無は、52.8%が「貢献したい」という回答となっている。
- ・「貢献したい」の理由では、「専門知識や技術を活用し町の発展に貢献したい」が41.3%、次いで「住民となって町を盛り上げていきたい」が30.4%となっている。



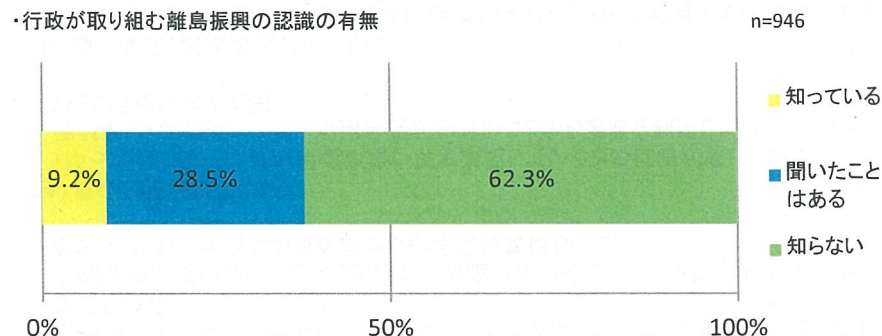
⑧島の将来 (10年後、20年後) のイメージ (予想) について (P15)

- ・島の将来(イメージ)は、61.9%が「発展している」という回答となっている。
- ・「発展している」の理由は、「観光関連を始めとする企業やホテル、施設などが増えている」が31.4%、次いで「家・アパート等が増えている」が18.8%、「人口が増えている」が15.8%となっている。
- ・「衰退している」の理由は、「人口の減少(若い人がいない)」が34.7%、次いで「高齢化社会」が26.9%となっている。



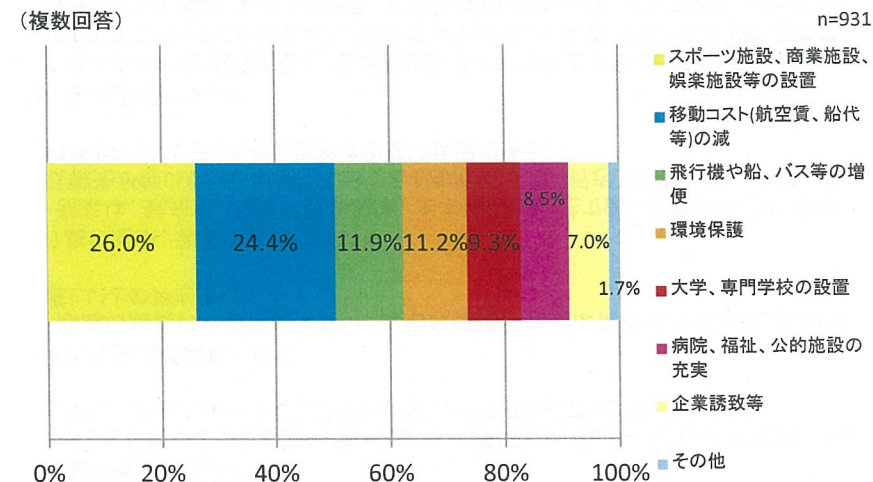
⑨国や地方自治体が実施している「離島振興」の認識の有無（P16）

・国や自治体を実施する「離島振興」の認識の有無は、62.3%が「知らない」という回答となっている。



⑩行政に対する要望について（P17）

・行政に対する要望は、「スポーツ施設、商業施設、娯楽施設等の設置」が26%、次いで「移動コスト（飛行機／船代）を安く（負担）してほしい」が24.4%の順となっている。



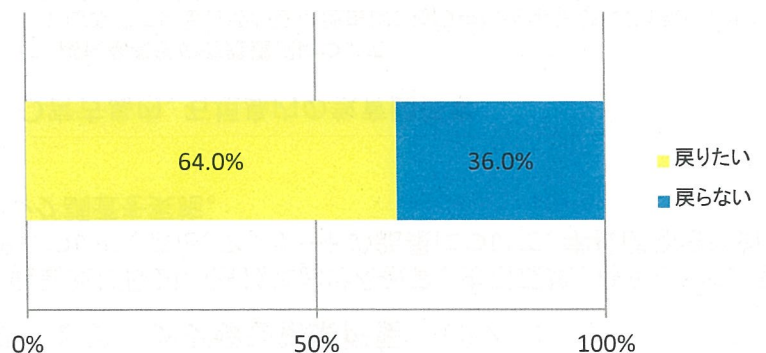
⑪中学まで生活していた島に戻る気持ちについて（小離島出身者の回答）（P20）

※調査対象：多良間村、竹富町、与那国町の中学出身生徒

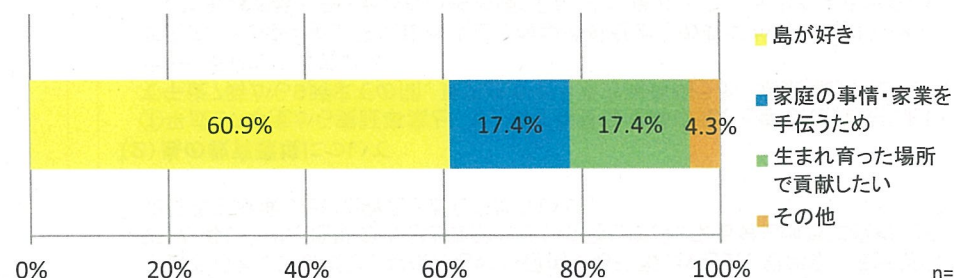
・島に戻る気持ちの有無は、64%が「戻りたい」という回答となっている。

・「戻りたい」の理由は、「島が好き」が60.9%となっている。

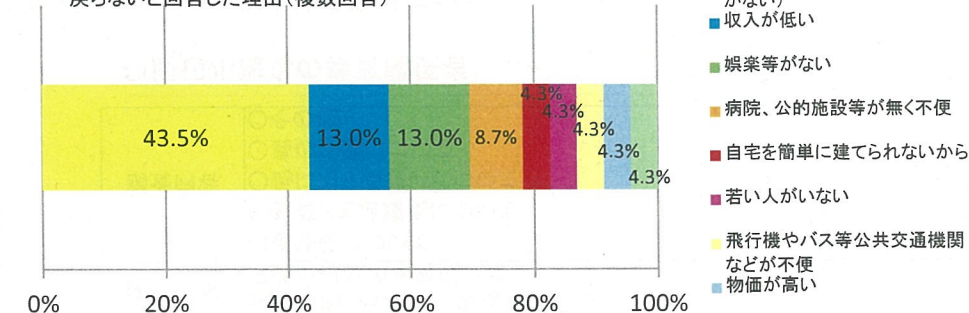
・「戻らない」の理由は、「仕事の間がない(やりたい仕事がない)」が43.5%となっている。



・戻りたいと回答した理由(複数回答)



・戻らないと回答した理由(複数回答)



2. ヒアリング調査結果概要 (P22)

離島及び周辺小離島における教育、生活環境、島がもっている課題等について、また、アンケートの結果について、学校関係者に対しヒアリング調査を実施。

○宮古島内、石垣島内の教育関係者

(1) 高校卒業後の進路選択について

- ①島の外に出る生徒が多い理由は、島の中に進学先がなく就職先も少ないことから、島の外に出るしかないという現状もあるが、若者としてチャレンジ、スキルアップ、自立という観点から選択しているということも言える。
- ②県外選択にあたっては、特に県外に出た先輩とのSNS等を通じて、他には親類、各県に所在する県人会からの情報をもとに判断している。
- ③沖縄本島に寮を完備した就職先が少ないため、実費負担等が少なく済む県外企業を就職先を選択する点がある。

(2) 仮に島の中に進学先、就職先があっても島の外を選択する生徒が多いことについて

- ・若者としてチャレンジ、スキルアップ、自立という観点から選択していることもあるだろうが、これまで進学先がない、就職先が少ないという理由から、島の外を選択せざるを得なかった状況があるため、それが(島の外に出ることが)当たり前であるとの考えが生徒に浸透している。

(3) 島の教育環境等について

- ①昔に比べて宮古島や石垣島は塾も多くなっている。親も教育熱心ではあるが、高校周辺に塾が多いことから、他の地域の生徒は通えなかったり、金銭的に通えない生徒もいる。
- ②物価や家賃が高いことから生活費にお金がかかることや、賃金が低いといったことから、教育に十分なお金を回せない環境の生徒もいる。

(4) 島の生活環境について

- ・ゆったりしている、自然環境が良い等で満足しているとの回答が多いという点、物価が高い、洋服店、スポーツ用品店が少ないことから通販を利用している生徒が多いという点は大人も同じ。

(5) 島の産業、若者の人口について

- ・宿泊、飲食等の観光業が多い。次に農業が多いが、多くの若者を受け入れられる規模ではないことや賃金といった点で、若者が島の外に出ざるを得ない状況である。

(6) 島の課題について

- ・就職先が少ないため、島の生活に満足していることや、将来島に戻りたいと答えているに関わらず、島の外で大学等を卒業、スキルアップした後も島に戻れない状況となっていることから、雇用の創出は必要である。

調査先	宮古島内、石垣島内の教育関係者 周辺小離島の教育関係者
調査内容	○進路等について ○教育、生活環境について ○島に対する想いについて ○島の課題について ○その他

○周辺小離島の教育関係者

(1) 生徒の島に対する想いについて

- ①「将来、中学まで育った島に戻りたい」(周辺小離島の中学出身)という回答が半数を超えているのは、学校と地域が連携する行事(敬老会、豊年祭、伝統行事等)が多いため、地域の人達との触れ合いを通じて、将来自分も地域に貢献、伝統行事を継承したいと考えるからではないか。

(2) 島の教育環境について

- ①平成27年度から実証事業として、教育委員会主導の元、各学校の施設において午後7時から9時までの間、東大生が行う双方向遠隔ライブ授業(東大NETアカデミー)を取り入れている。
- ②島内の生徒は本島等に比べ人との競争や外部からの刺激があまりないため、すぐに興味を示す子と示さない子が両極端。生で島外企業の仕事を見る機会があり、見た生徒の一部がその職業を将来やってみたいと興味を持ち、英語の勉強を自発的に始めた例もある。生徒には数多くの情報提供等が必要と感じる。

(3) 高校進学について

- ・子どもが島から出たときに、周囲との学力差で折れてしまったり、人間関係をうまく形成できないといったことがないように、中学の時に力をつけさせたい。

(4) 島の生活環境について

- ・離島の離島のため物価は高い。部活の遠征や大会は補助が出るが、経済的に厳しいとの声も聞く。

(5) 島の産業、若者の人口について

- ・産業は、観光業、農業や兼業農家、土木建設業が主であり若者が望む業種の就職先が無い状況。中学を卒業すると島の外に出て行き、高校、大学、就職と島の外になってしまうため、若者は少ない状況である。

(6) 島の課題について

- ①島の外で一旦就職すると、生活基盤がそこで出来上がってしまう。また、それを捨ててまで戻ってこられるような産業がないため、企業誘致等による地場産業の活性化、生活環境(食住)の整備、雇用の場の提供などは必要である。帰ってくるパターンは村役場への就職、家業を継ぐといったところ。
- ②沖縄の主力産業である「観光」の活性化、観光客の増加を望む。人が増えることにより、生徒(小中学生など)と観光客との人的交流やコミュニケーションなど良い刺激を受ける機会が増加するものと考えられるので期待したい。

◎調査から得られた結果◎

(P 26)

今回の調査では、島の将来を担う若者(高校3年生)に対し、高校卒業後の進路や島での生活満足度、課題、島の発展や将来イメージ等、更には行政が取り組む離島振興の認識等についてアンケート調査を行ったほか、アンケートの結果を踏まえ、その要因や島の現状等について、離島の教育関係者に対してのヒアリング調査を実施したところ、以下の結果が得られました。

○離島の高校生は、島内に大学等がないことから、高校卒業後に島から出る生徒が多いことは周知の事実であり、今回、初めて離島の高校生を対象に行ったアンケートでも、現在予定している進路の所在は、島の外が多いという結果となりましたが(85.3%)、その理由は、島の外にしかない(24.5%)以外にも、チャレンジ(19.9%)、スキルアップ(19.7%)、自立(15.7%)の3つを併せると高い割合(55.3%)となっており、また、仮に現在予定している進路等が島にあった場合であっても、島の外を選択するが多く(72.7%)、その理由も、前記したチャレンジ等の3つが高く(76.2%)、若者として外に出る意識が高いことの結果が得られました。

その一方、将来は島に戻りたいという気持ちが高い(63.9%)ことから、大学等終了後や、スキルや経験を積んだ若者が、島に戻って来られるよう、または他地域の若者が島に移り住むことができるよう、雇用の場や住みやすい環境(物価、住環境)作りが必要であると同時に、若者が楽しめる環境も求められているという結果が得られました。

(参考)

沖縄ミニ経済レポート調査一覧

【2013年】

「那覇まちなみ」の経済効果等について（2013年7月）

【2014年】

沖縄における専業主婦の就労意識等について（2014年2月）

島豆腐に関する調査等について（同年5月）

沖縄リゾートウェディングに関する調査について（同年9月）

「かりゆしウェア」に関する調査について（同年11月）

【2015年】

「マラソンin沖縄」に対する県外ランナー意向等調査（2015年2月）

沖縄県内大学生の就職に対する意識等調査について（同年5月）

沖縄の通訳案内等に関する調査について（同年9月）

【2016年】

「組踊」に関する調査について（2016年3月）

沖縄の伝統工芸品「織物」に関する調査（同年6月）

全国の「アンテナショップ」に関する調査（同年9月）

○公表資料（URL）：<http://www.ogb.go.jp/soumu/3094/010099.html>



沖縄ミニ経済レポート vol. 11

平成28年12月1日
～美ら島の未来を拓く～
内閣府沖縄総合事務局

離島の高校生に関する意識調査 (定例記者会見資料)

【本件に関するお問い合わせ先】

内閣府沖縄総合事務局 総務部調査企画課

担当：大嶺、沢田

[Tel:098-866-0047](tel:098-866-0047) (直通)

I. はじめに

○調査の目的等

本年6月19日に公職選挙法等の一部を改正する法律が公布、施行され、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、高校在学中に選挙で投票する可能性が出てきました。今後は高校生とはいえ、今まで以上に自分が暮らしている地域等のあり方や未来について真剣に調べ、考え、話し合うこと等の機会が増えることが想定されます。

また、島嶼地域である沖縄においては、大学進学や就職等する際には、県内外に進学等するケースもありますが、特に離島については、島内に大学等がないことから島から出なければいけないといった現状があり、高齢化や過疎化を防ぐ或いは現在の島の状況を維持、発展をさせるためには、生まれ育った島へのUターンや島外からのIターンなど、人（特に若者）の定住が必須であり、定住を促進するためには、島の産業や雇用、住環境等を整備、強化することが求められます。

そこで本調査では、島を一旦離れたとしても島へのUターンの期待を望むことができる「離島の高校生（3年生）」を対象に、島の現状、島に対する思い、島の将来等についてどのように考え、また、どのような希望やニーズを持っているかなどについて調査するとともに、調査結果を今後の離島振興に役立てることを目的として調査を実施しました。

離島の高校について

県内の高校は全体で66校あり、うち離島の高校は久米島地域（1校）、宮古島地域（4校）、八重山地域（3校）の計8校が既設しております。

図表1：離島の高校（内訳）

地 区	高校名	学科	3年生 定員数	計	3年生 在籍数	計	回答数
久米島地区	久米島高校	普通	80	120	60	85	81
		園芸	40		25		
宮古地区	宮古高校	普通	200	280	197	274	271
		理数	80		77		
	宮古工業高校	自動車機械	40	120	27	77	75
		電気情報	40		28		
		生活情報	40		22		
	宮古総合実業高校	生物生産	40	200	26	154	146
		食と環境	40		37		
		生活福祉	40		35		
		海洋科学	40		17		
		商業	40		39		
	伊良部高校	普通	40	40	17	17	17
八重山地区	八重山高校	普通	240	240	233	233	218
	八重山商工高校	機械電気	40	160	30	120	79
		情報技術	40		24		
		商業	80		66		
	八重山農林高校	アグリフード	40	160	22	88	78
		グリーンライフ	40		19		
		フードプロデュース	40		15		
		ライフスキル	40		32		

8校の合計	定員数 1,320人	在籍数 1,048人	回答数 965人
-------	------------	------------	----------

※回答数は、調査時期に部活動の大会等により実施できなかった者を除く。

Ⅱ. 離島の高校生に関する意識調査について

本調査は、離島の高校3年生を対象に島の現状や課題、島に対する思い、生活の満足度、島の将来等及び高校生が地元の島に対しどのような希望やニーズをもっているかなどの把握、併せて行政（国や自治体）が取組む離島振興の認識等についてアンケート調査を行ったほか、アンケートの結果を踏まえ、その要因や島の現状等について、離島の教育関係者に対してのヒアリング調査を実施しました。

1. 離島の高校生（3年生）に対するアンケート調査概要

高校生（3年生）に対するアンケート調査については、離島の高校（計8校）に対しアンケートを配布、回収する方法で実施しました。

調査の実施は、9月上旬から9月中旬にかけ、計965名の生徒から回答を得ました。

図表2：アンケート調査の実施概要

項目	概要
対象等	・ 離島の高校3年生（8校）を対象にアンケート調査で実施。
主な調査項目	・ 高校卒業後の進路等 ・ 島での生活満足度、課題 ・ 島の発展、将来イメージ等 ・ 行政が取組む離島振興の認識 ・ その他

図表3：アンケートの実施状況

	合計
1. アンケート配付数 (A)	965 名
2. アンケート回収数 (B)	965 名
3. 有効回答	965 名
4. 無効回答数	0 名
5. 有効回答率 (B) / (A)	100%

調査時期に部活動の大会等により実施できなかった者を除く。

2. 離島の高校（3年生）に対するアンケート調査結果

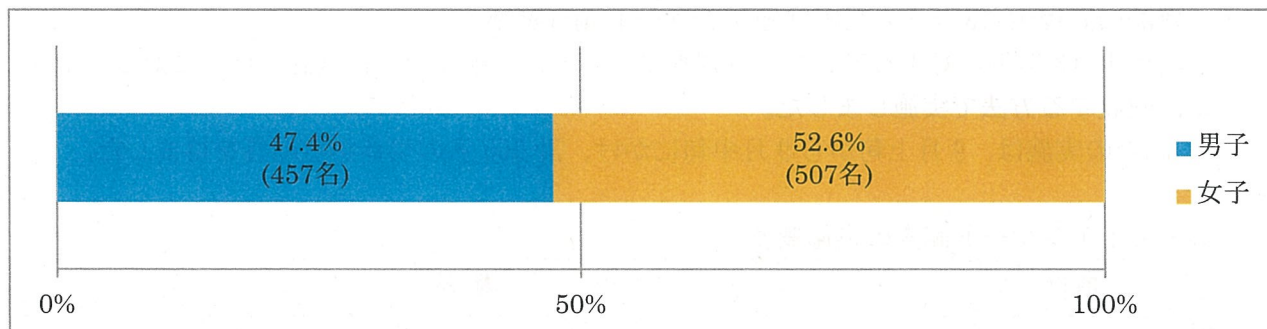
(1) 回答者の属性

① 性別

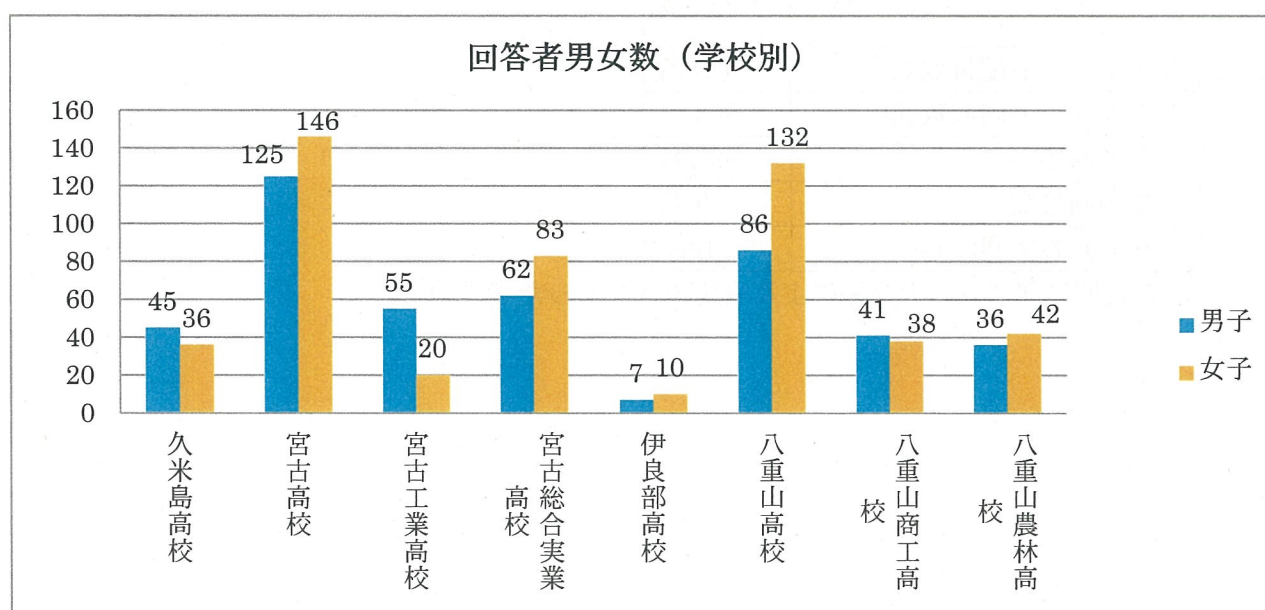
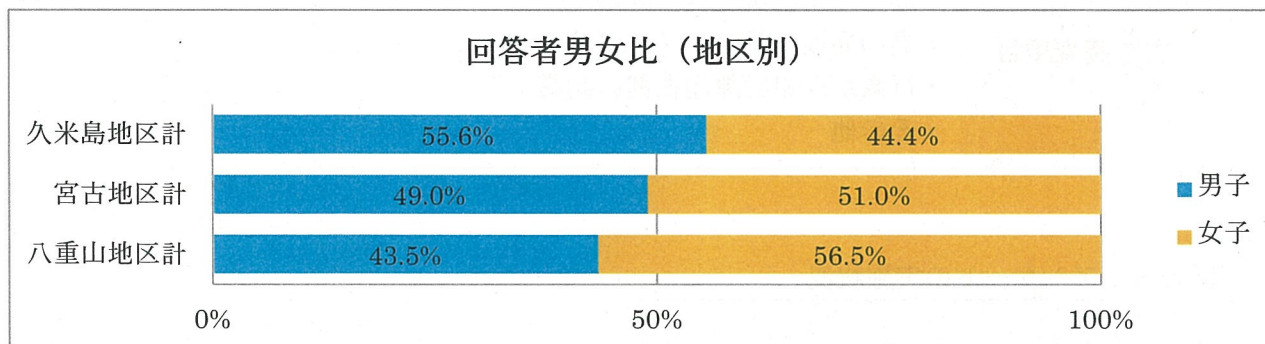
性別は、全体で男子が47.4%、女子が52.6%となっています。

図表4：性別

N=964



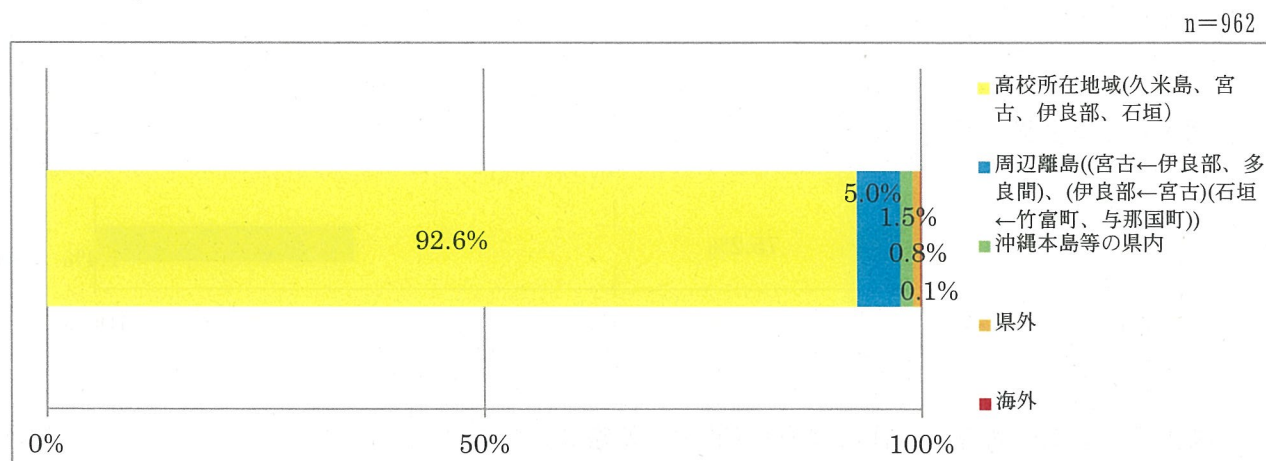
(参考)



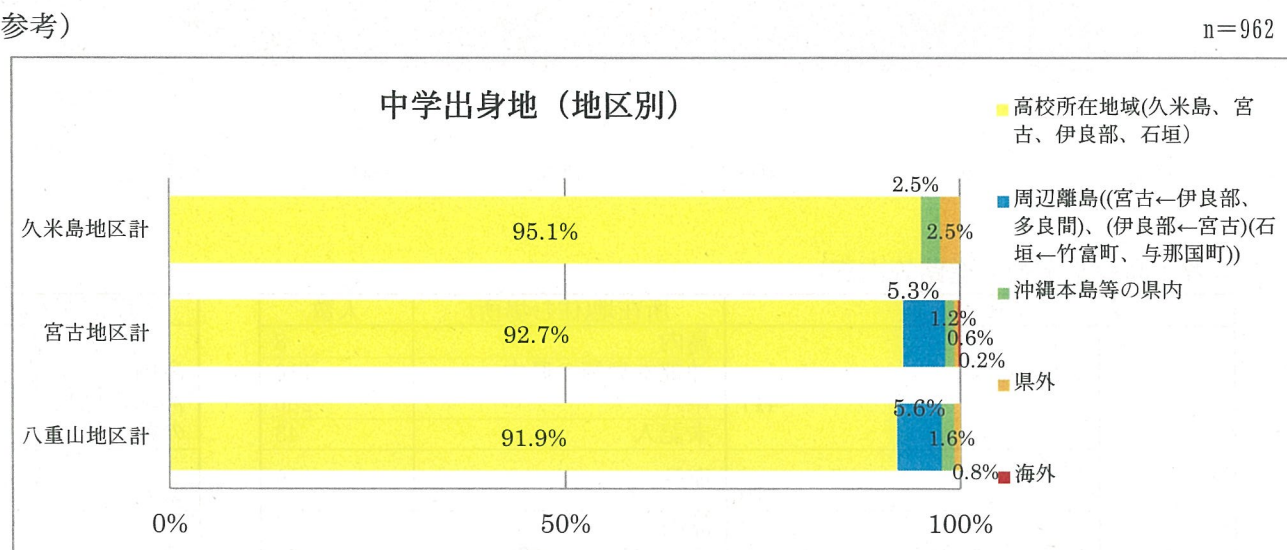
② 中学出身地

中学出身地は、ほとんどが高校所在地域の出身となっており、地区別に見てもさほど違いはない状況となっています。

図表 5：中学出身地



(参考)



	高校所在地域 (久米島、宮古、 伊良部、石垣)	周辺離島 ((宮古←伊良部、多 良間)、(伊良部←宮古)、(石 垣←竹富町、与那国町))	沖縄本島 等の県内	県外	海外	合計
八重山地区計	342	21	6	3		372
宮古地区計	472	27	6	3	1	509
久米島地区計	77		2	2		81
合計	891	48	14	8	1	962

(2) 高校卒業後の進路等について

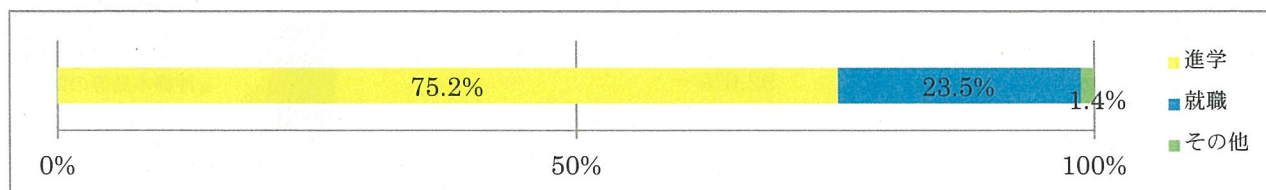
① 高校卒業後の進路とその所在地について

高校卒業後の進路は、全体の75.2%が進学となっています。

進路の所在地（住む場所）は、大学・短大、就職は県外、専修・専門学校は県内が多いとなっています。

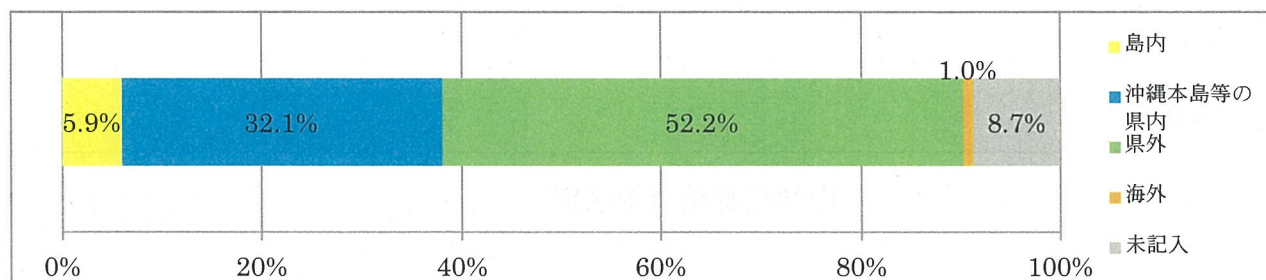
図表6：卒業後の進路

n=962



図表7：進路の所在地（住む場所）（進学、就職等の合計）

n=962



(参考：高校卒業後の進路等内訳)

卒業後の進路			所在地(住む場所)	人数
進学 723	大学・短大 417		島内	8
			沖縄本島等の県内	110
			県外	256
			未記入	43
	留学 10		海外	10
	専修・専門学校 286		島内	7
			沖縄本島等の県内	138
			県外	118
			未記入	23
	その他(内訳) 10		島内	2
就職 226		就職進学	沖縄本島等の県内	3
		技術訓練生	県外	5
		通信制	未記入	0
		未記入		
			島内	38
			沖縄本島等の県内	55
その他 13			県外	120
			未記入	13
			島内	2
		未定	沖縄本島等の県内	3
		未記入	県外	3
			未記入	5

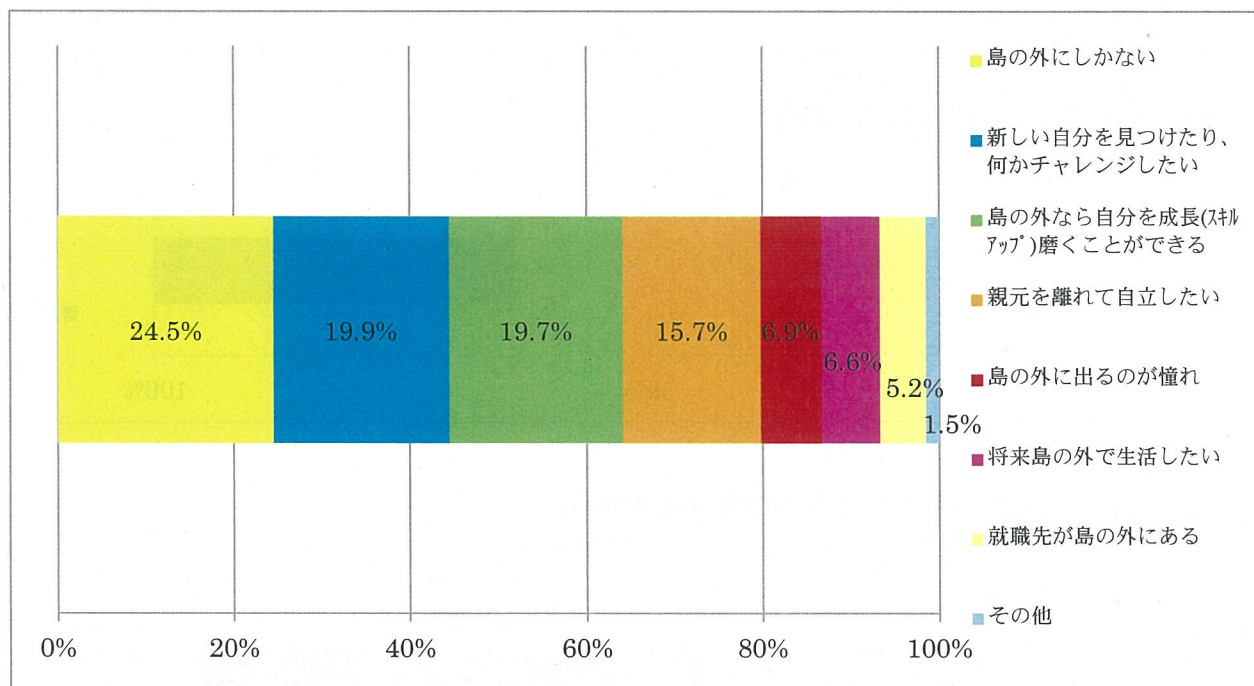
所在地の計	
島内	57
沖縄本島等の県内	309
県外	502
海外	10
未記入	84
合計	962

② 上記①で、県内（本島等）、県外、海外を選択した回答者のその理由

進路の所在地として、島以外（県内（本島等）、県外、海外）を選択した理由は、「島の外にしかない」が 24.5%、次いで「新しい自分を見つけたり、何かチャレンジしたい」が 19.9%、「島の外なら自分を成長（スキルアップ）磨くことができる」が 19.7%となっています。

図表 8：県内（本島等）、県外、海外を選択した回答者のその理由（複数回答）

n=871



③ 上記①で、県内（本島等）、県外、海外を選択した回答者で、将来島に戻る気持ちの有無及びその理由

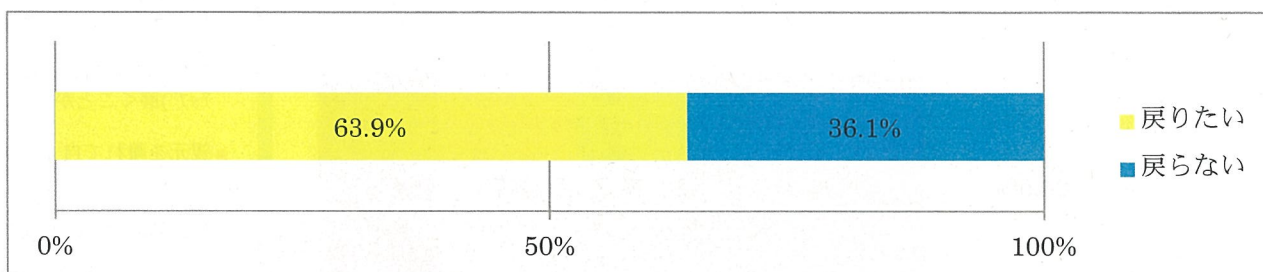
将来、島に戻る気持ちの有無は、63.9%が「戻りたい」と回答しています。

「戻りたい」とした理由は、「島が好き」が46%、「生まれ育った場所で貢献したい」が35.6%となっています。

「戻らない」とした理由は、「自分を成長（スキルアップ）、磨くことができる」が21.1%、「島の外の方が収入が高い」が14.5%、「仕事の間がない」が14.2%、「親元を離れて自立したい」が13.1%となっています。

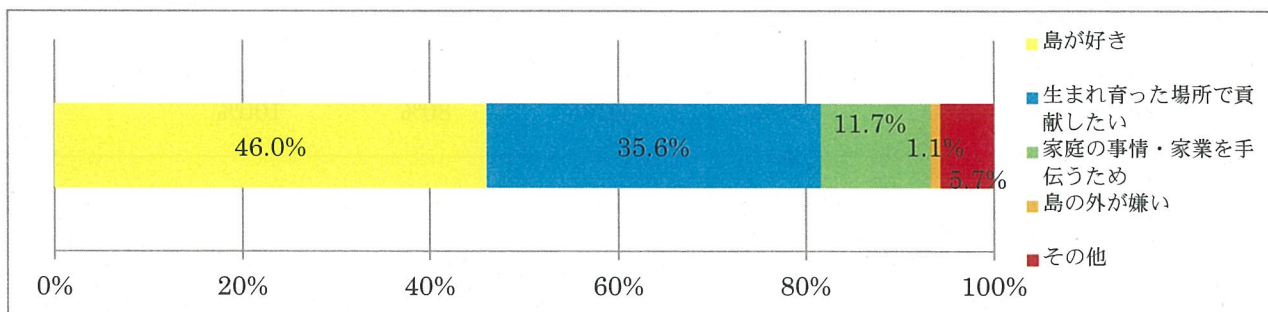
図表 9：将来島に戻る気持ちの有無

n=837



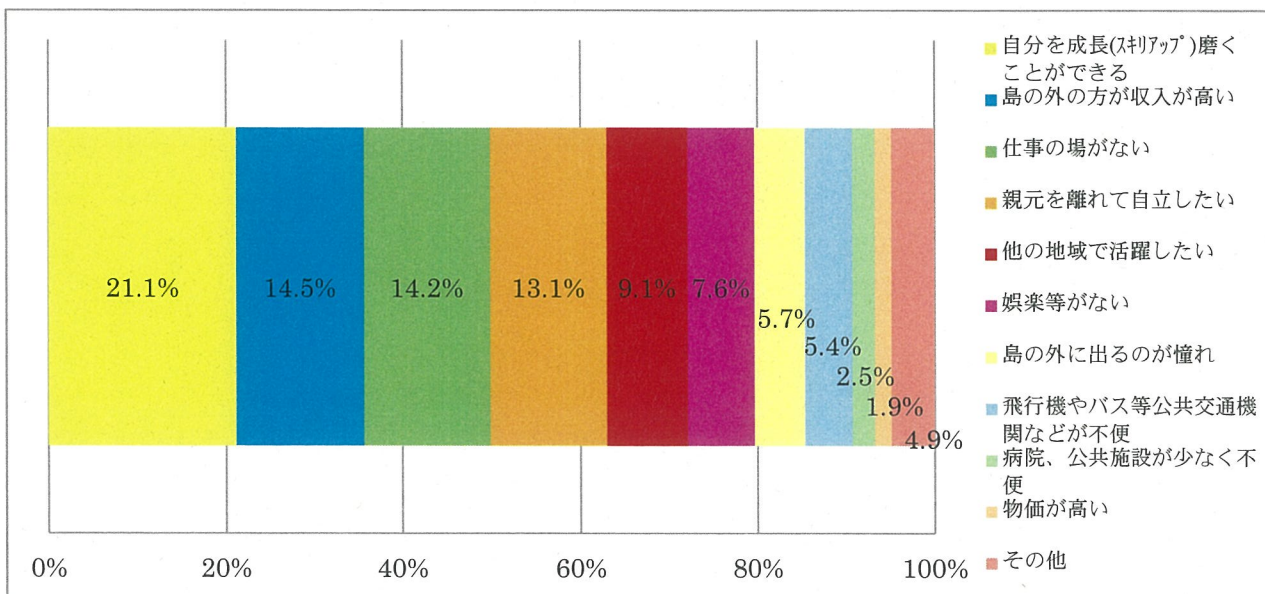
図表 10：戻りたいと答えた方の理由（複数回答）

n=535



図表 11：戻らないと答えた方の理由（複数回答）

n=302



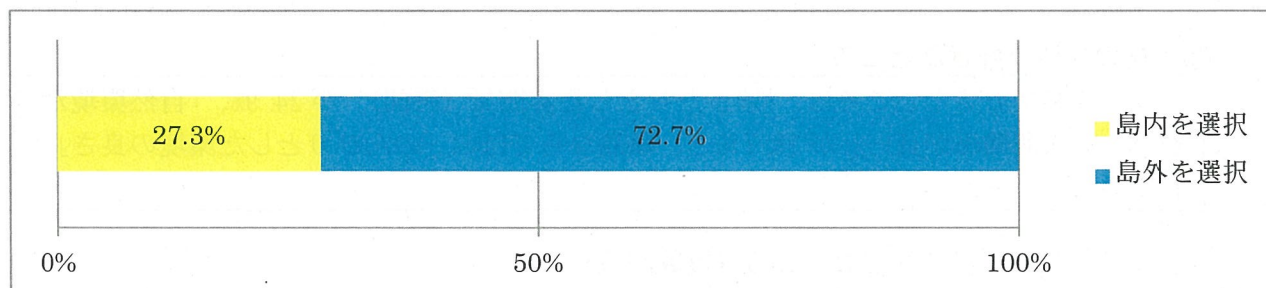
④ 上記①で、県内（本島等）、県外、海外を選択した回答者で、仮に現在予定している進路先と同じ条件の進路先が島にあった場合の選択及び理由

仮に現在予定している進路先と同じ条件の進路先が島にあった場合であっても、72.7%が「島外を選択する」となっています。

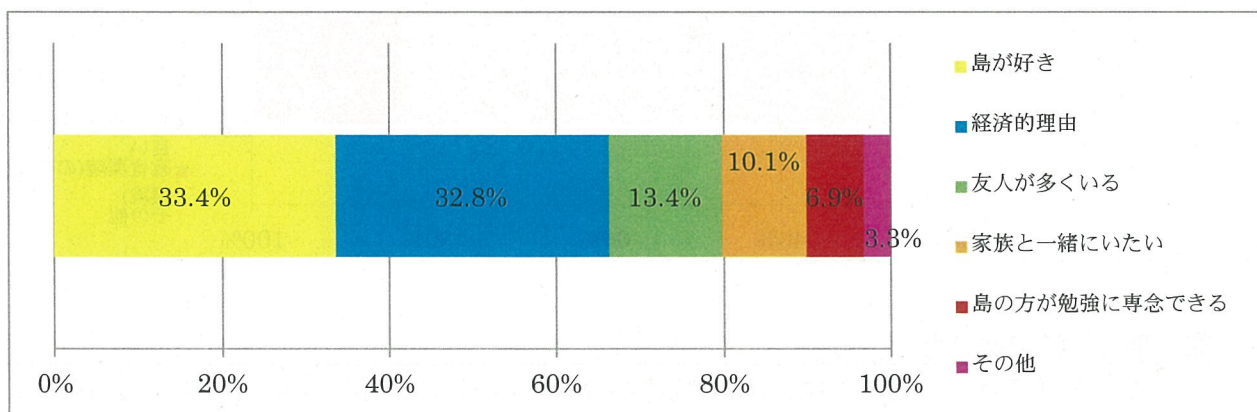
「島内を選択する」とした理由は、「島が好き」が 33.4%、「経済的理由」が 32.8%となっています。

「島外を選択する」とした理由は、「新しい自分を見つけたりチャレンジしたい」、「自分を成長（スキルアップ）させ、磨くことができる」、「親元を離れて自立したい」など、自身のスキルアップや向上心、自立心的な回答が全体の 76.2%となっています。

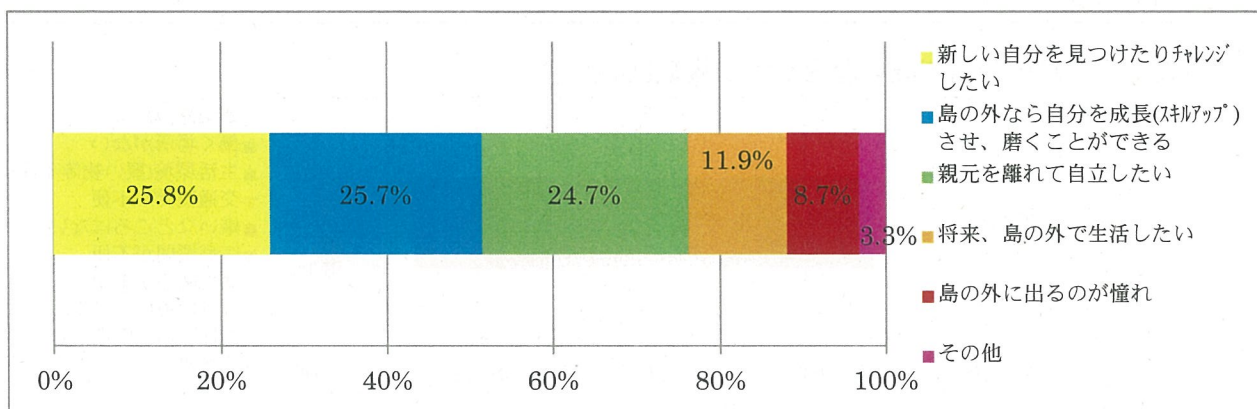
図表 1 2：現在予定している進路先と同じ条件の進路先が島にあった場合の選択及び理由 n=821



図表 1 3：島内を選択すると答えた方の理由 n=224



図表 1 4：島外を選択すると答えた方の理由 n=597



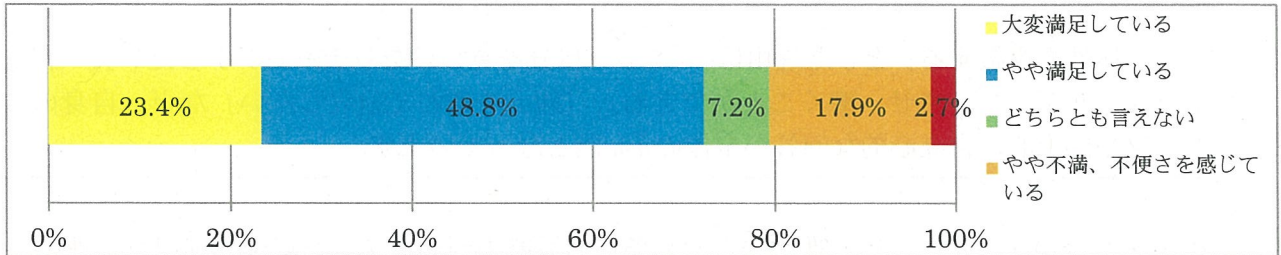
(3) 島での生活満足度、島が持っている課題について

① 島の生活の満足度について

島の生活の満足度は、72.2%が「大変満足している」、「やや満足している」となっています。

図表 1 5 : 島の生活の満足度

n=955

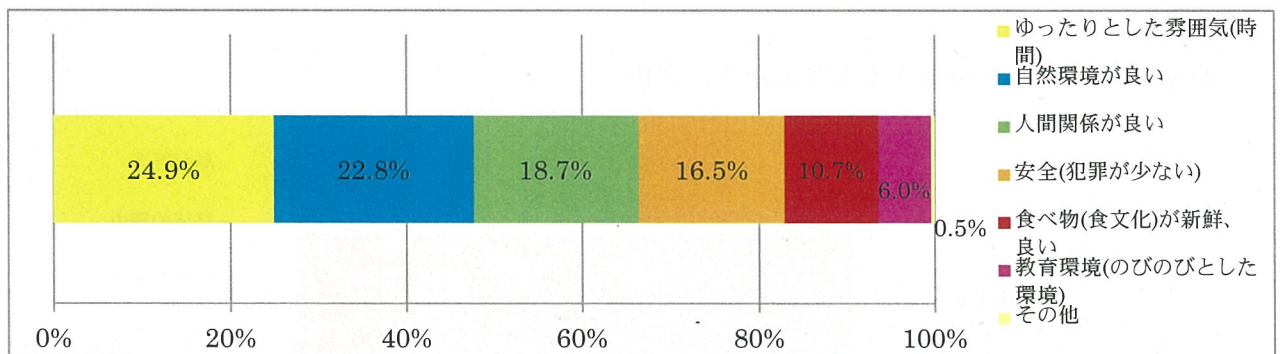


② 島の生活で好きなところ

島の生活で好きなところは、「ゆったりとした雰囲気（時間）」が24.9%、「自然環境が良い」が22.8%、「人間関係が良い」が18.7%と、離島ならではの「のんびりとした環境の良さ」が挙げられています。

図表 1 6 : 島の生活で好きなところ（複数回答）

n=949

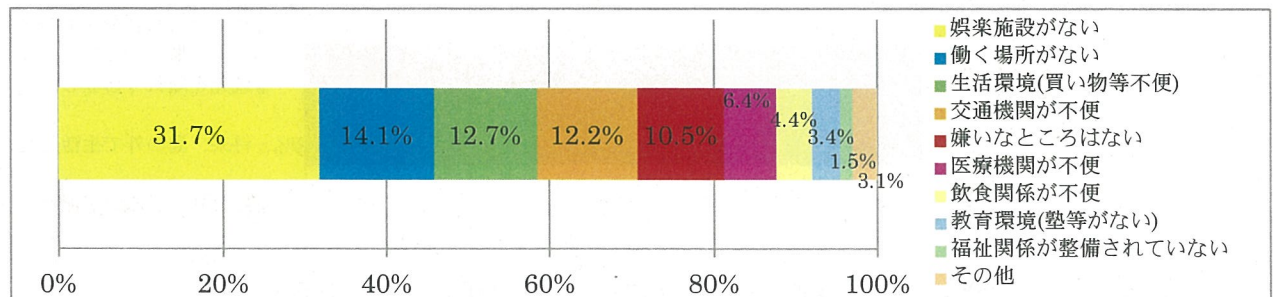


③ 島の生活で嫌いなところ

島の生活で嫌いなところは、「娯楽施設がない」が31.7%、「働く場所がない」が14.1%、「生活環境（買い物等不便）」が12.7%となっています。高校生にとっては遊び（娯楽）やショッピング（買い物）は希望する分野ですが、離島では殆ど無いため、不便さ（島が嫌い）を感じているようです。

図表 1 7 : 島の生活で嫌いなところ（複数回答）

n=952

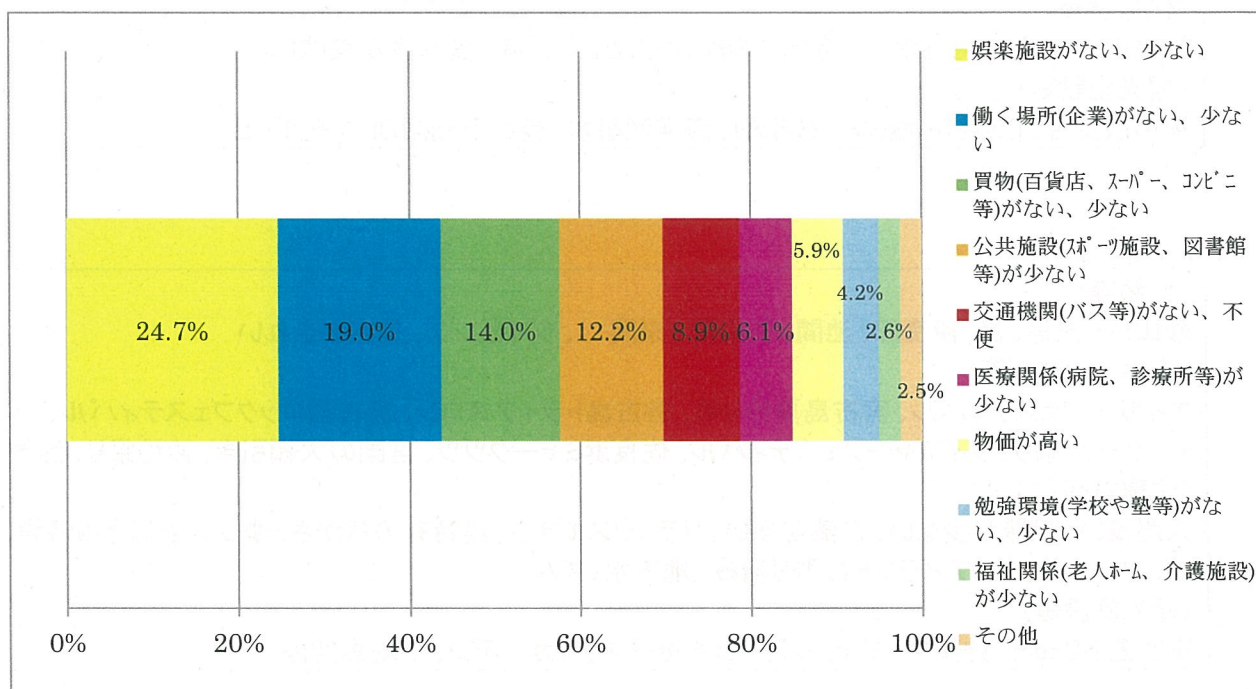


④ 島がもっている課題について

島が持っている課題は、「娯楽施設がない、少ない」が24.7%、次いで「働く場所（企業）がない、少ない」が19%、「買い物（百貨店、スーパー、コンビニ等）がない、少ない」が14%となっています。

図表18：島がもっている課題（複数回答）

n=936



⑤ 島のアピールポイントについて

【久米島地区】

(自然等)

はての浜、イーフビーチ、たたみ石、星空、シンリ浜、自然(海・山)

(行事・イベント等)

久米島祭り(夏祭り含む)、久米島ほたる祭り、久米島マラソン、組踊、儀間祭、イーフ祭、ワンラブフェス

(住環境等)

地域の人が優しい・温かい、島特有のゆったりとした時間、食べ物が美味しい

(観光施設等)

夜の展望台、じんぶん館(寮)、久米仙、海洋深層水、登武那覇園地、くるまエビ

【宮古地区】

(自然等)

砂山ビーチ等、島(伊良部、池間、多良間、来間)、ダイビング、星空がきれい

(行事・イベント等)

エイサーフェスティバル、宮古島夏祭り等、宮古島トライアスロン、宮古島ロックフェスティバル、パントウー、ビール祭り、クイチャーフェスティバル、佐良浜ミャークツツ、宮国の大綱引き、仲地祭り、海神祭

(住環境等)

人が良い、犯罪が少ない、自然が多い、リラックスできる、島特有の静かさ、ゆっくりと過ぎる時間、宮古ソバ、マンゴー、エコアイランドの取り組み、地下水(ダム)

(観光施設等)

宮古島 BBcom、狩俣マッチャーズ、インギーマリンガーデン、下地島空港

【八重山地区】

(自然等)

川平湾、なぐら湾、フサキビーチ等、石垣島鍾乳洞、バナナ公園、星空、カンムリワシ等(動植物)、祖納岳、マリユードの滝等、イリオモテヤマネコ、名蔵アンパル、仲間川等

(行事・イベント等)

石垣島まつり等、オリオンビール祭り、豊年祭、南の島の星まつり、アンガマ(お盆)、イタシギイバラ、カジキまつり、とうばら一ま大会、ツンダミフェス

(住環境等)

温かい雰囲気、素晴らしい自然環境・自然が豊か、みんな優しい、落ち着く場所、伝統行事を大切にしている

(観光施設等)

ちゅらさん広場(小浜島)、ミルミル本舗、A&W、サザンゲートブリッジ、玉とり展望台、滝等、石垣牛、唐人墓、ミンサー織、730 交差点、ホテルが充実

(4) 島の発展、将来のイメージについて

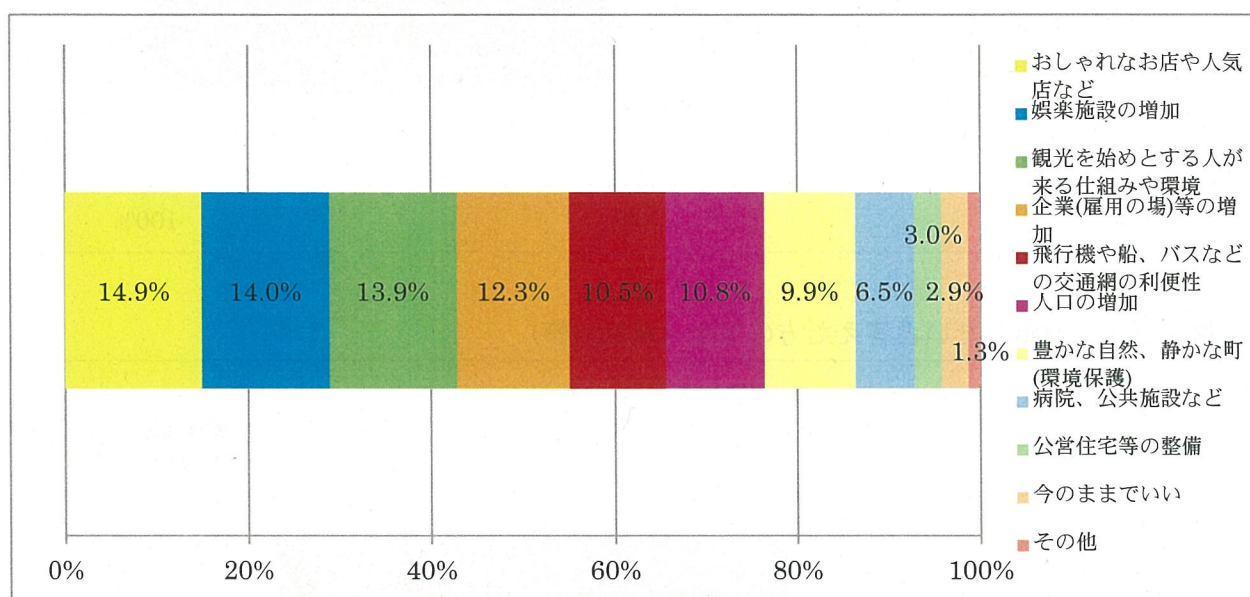
① 島の発展のためには何が必要か

島の発展のために必要なものは、「おしゃれなお店や人気店など」が 14.9%で、「娯楽施設の増加」が 14%と高校生的な回答が多くなっていますが、「観光を始めとする人が来る仕組みや環境」が 13.9%、「企業（雇用の場）等の増加」が 12.3%と、島の発展には企業や施設の増加等も必要であるとの回答も同様に多くあります。

なお、久米島では、島の発展のためには「人口の増加」が 24.8%と一番多くなっています。

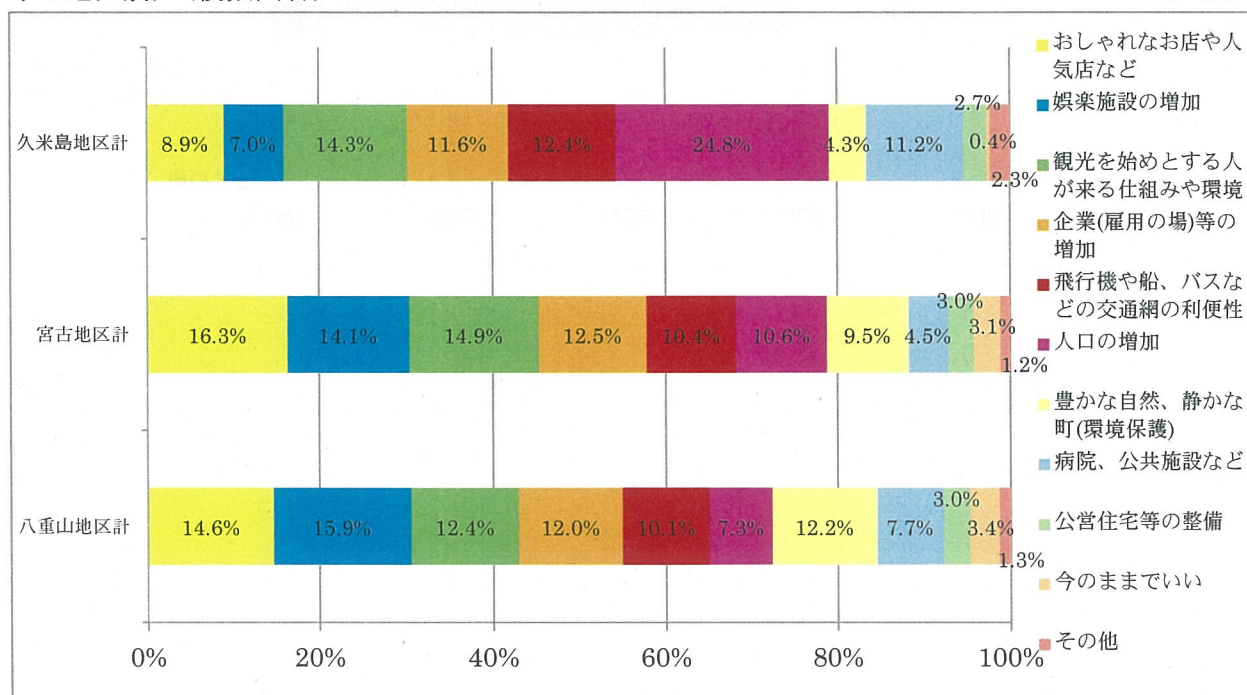
図表 19：島の発展のために何が必要か（複数回答）

n=955



(参考：地区別)（複数回答）

n=955



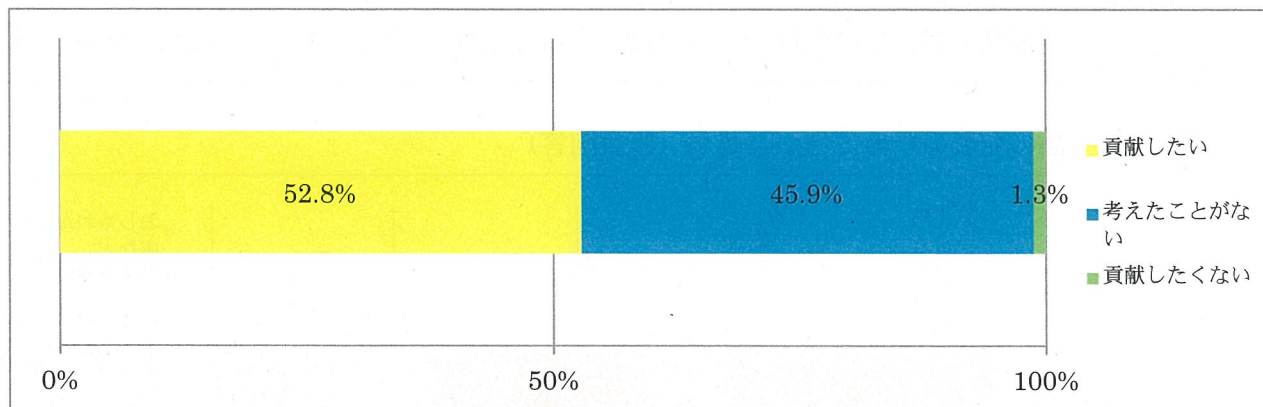
② 島への貢献について

島への貢献は、52.8%が「貢献したい」となっています。

「貢献したい」とした理由は、「専門知識や技術を活用し町の発展に貢献したい」が41.3%、「住民となって町を盛り上げていきたい」が30.4%となっています。

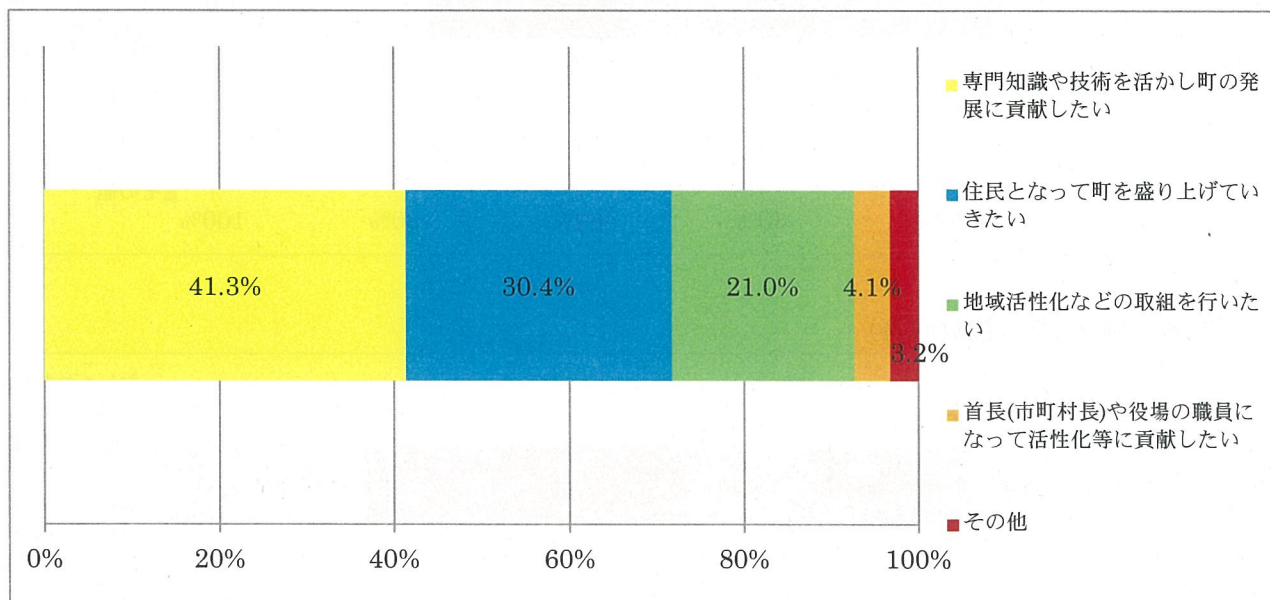
図表 2 0 : 島への貢献について

n=950



図表 2 1 : 貢献したいと答えた方の理由（複数回答）

n=502



③ 島の将来（10年後、20年後）のイメージ（予想）について

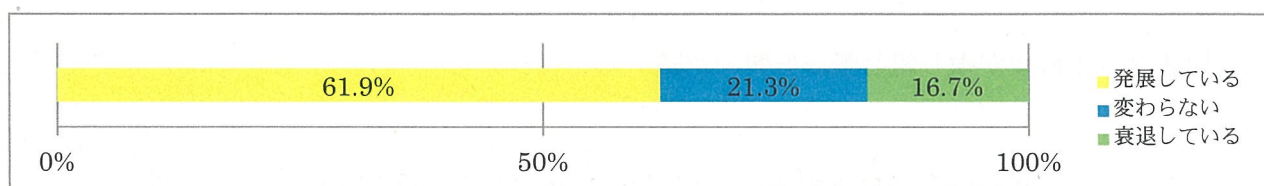
島の将来（10年後、20年後）のイメージ予想は、「発展している」が61.9%となっています。

「発展している」とした理由は、「観光関連を始めとする企業やホテル、施設などが増えている」の回答が31.4%、「家・アパート等が増えている」が18.8%、「人口が増えている」が15.8%となっています。

「衰退している」とした理由は、「人口の減少（若い人がいない）」が34.7%となっています。

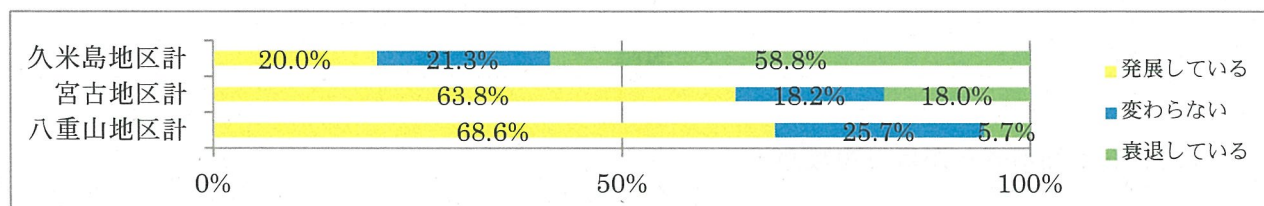
図表 2 2：島の将来（10年後、20年後）のイメージ（予想）

n=951



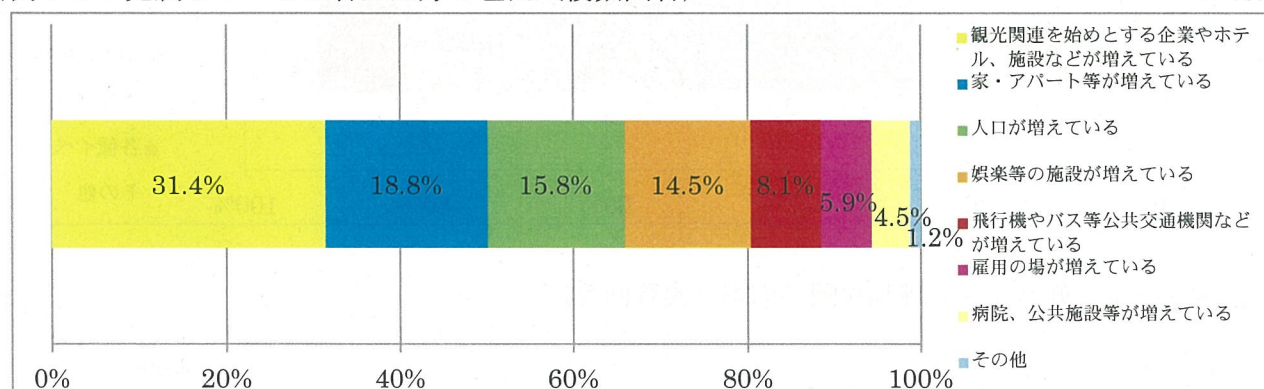
(参考：地区別)

n=951



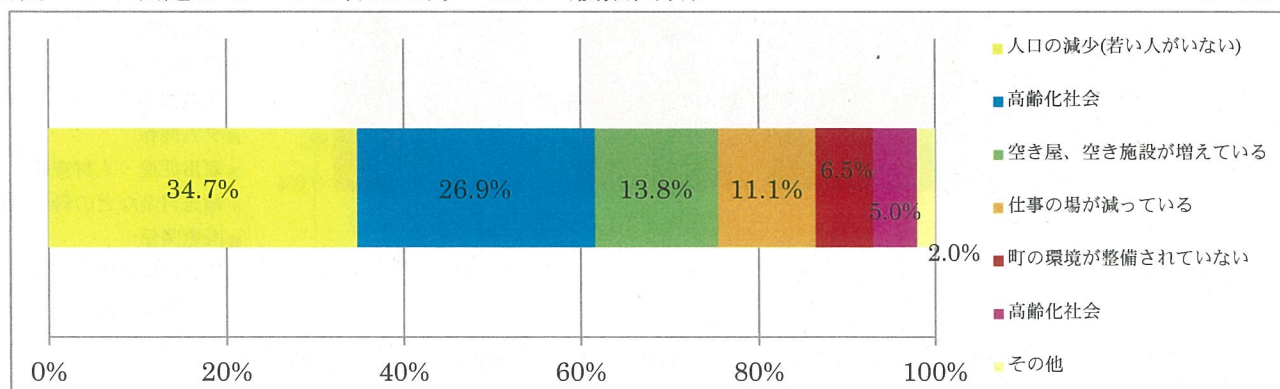
図表 2 3：発展していると答えた方の理由（複数回答）

n=589



図表 2 4：衰退していると答えた方の理由（複数回答）

n=159



(5) 行政が取り組む離島振興の認識について

① 国や県、市町村が実施している「離島振興」の認識の有無について

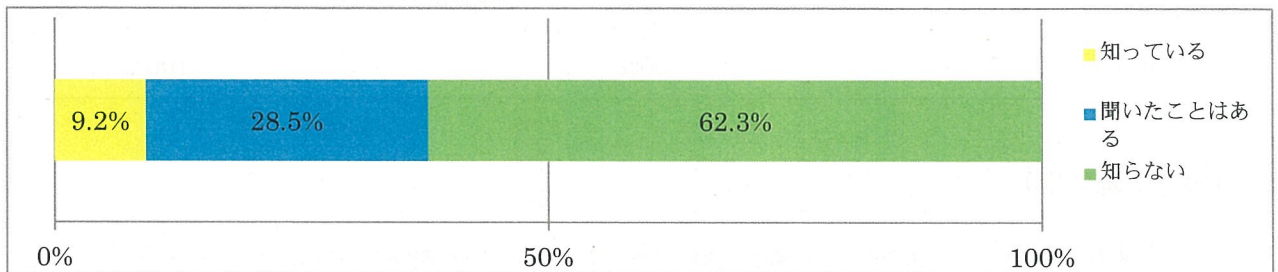
国や県、市町村が実施している「離島振興」の認識の有無は、「知っている」が 9.2%、「知らない」が 62.3%となっています。

「知っている」とした回答者の離島振興についての知るきっかけは、「テレビ」が 25.9%、「新聞、雑誌」が 23.8%となっています。

また、「知っている離島振興の内容」は、「空港関係」が 21.2%、「子育て、福祉、高齢者への支援」が 13.5%、「港湾関係」が 10.6%となっています。

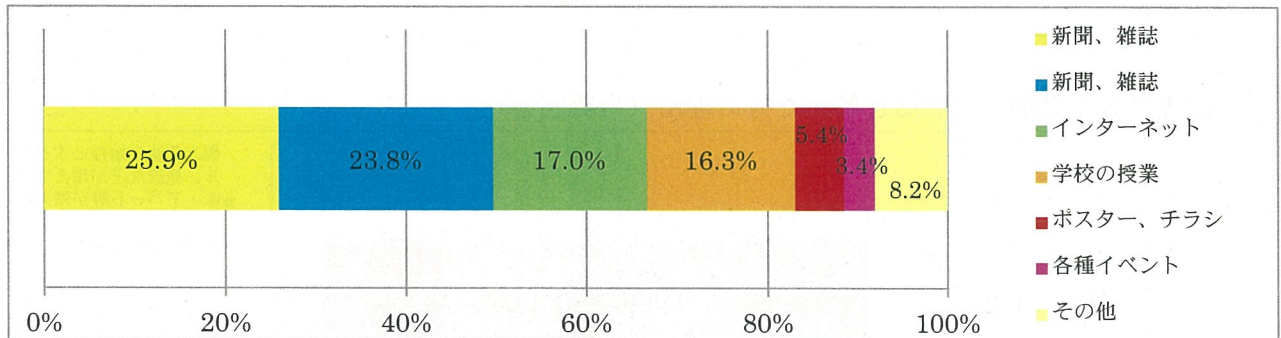
図表 2 5 : 行政が取り組む離島振興の認識

n=946



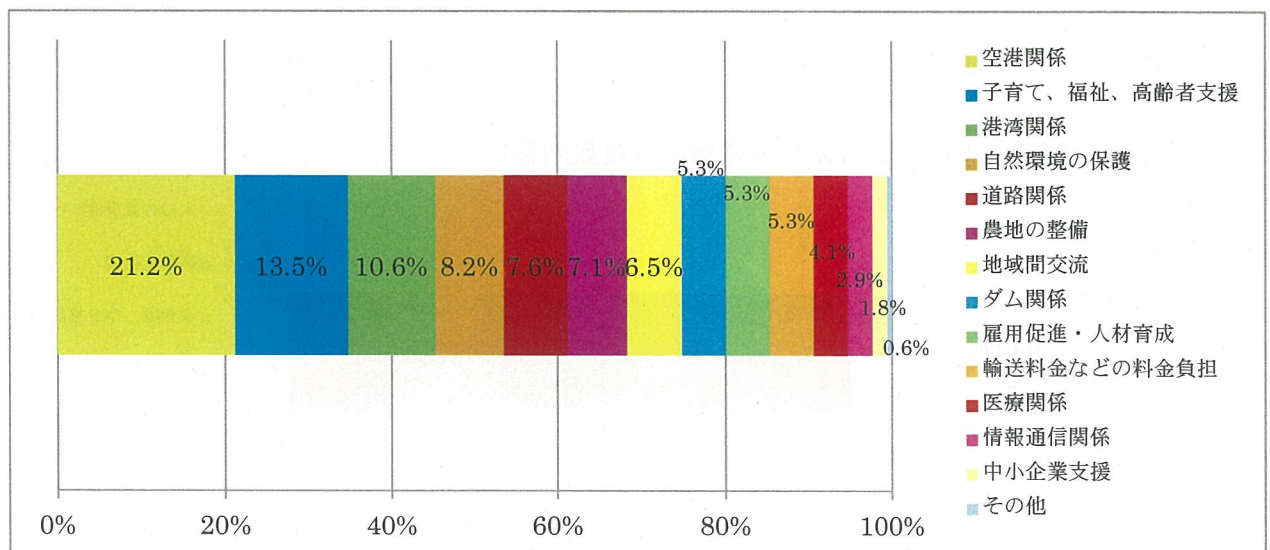
図表 2 6 : 知るきっかけ (複数回答)

n=87



図表 2 7 : 知っている離島振興の内容 (複数回答)

n=87

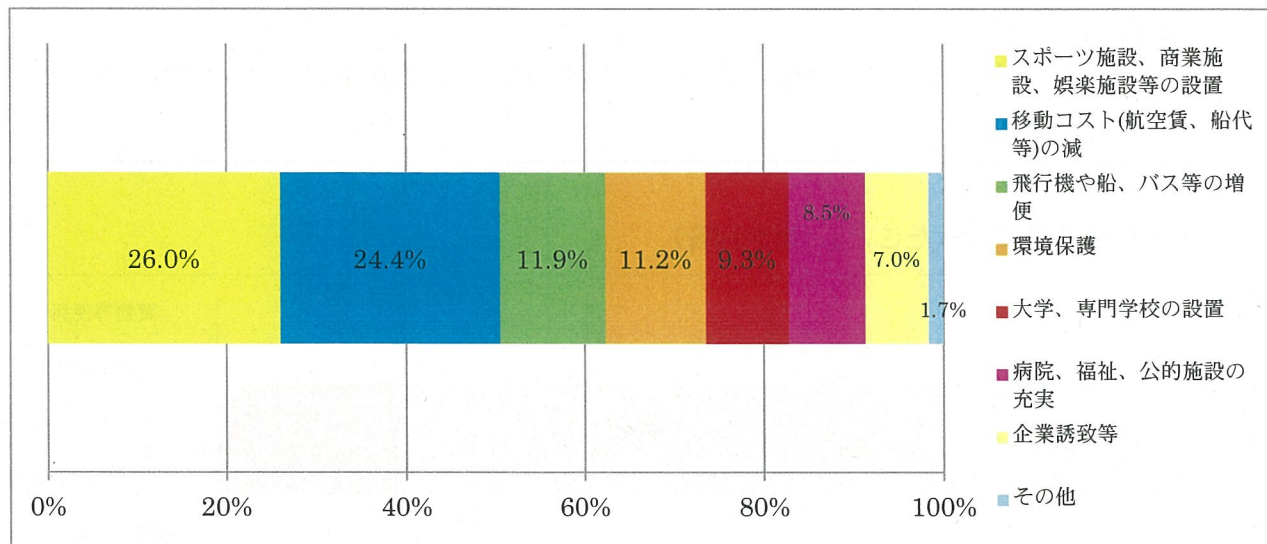


② 行政に対する要望について

行政に対する要望は、「スポーツ施設や商業施設、娯楽施設等の設置」が26%、「移動コスト（航空賃、船代等）を安く（負担）してほしい」が24.4%となっています。

図表28：行政に対する要望（複数回答）

n=931



(6) 小離島の生徒の意識等について

※調査対象：多良間村、竹富町、与那国町の中学出身の生徒

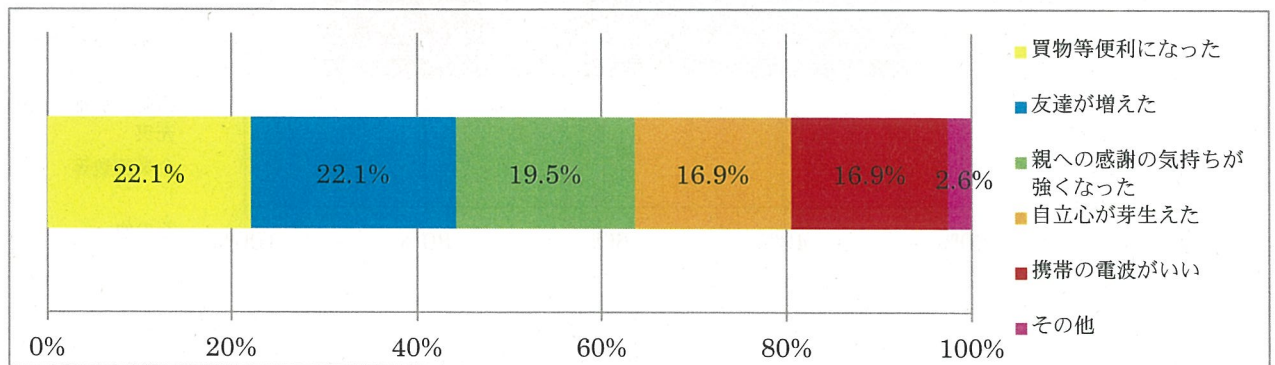
① 中学までの生活と今の生活の変化について

中学までの生活と今の生活の変化について、「良くなったこと」は、「買物等が便利になった」及び「友達が増えた」が各 22.1%、「親への感謝の気持ちが強くなった」が 19.5%となっています。

「悪くなったこと」は、「寂しくなった」が 39.1%、「自炊が不便」が 34.8%となっています。

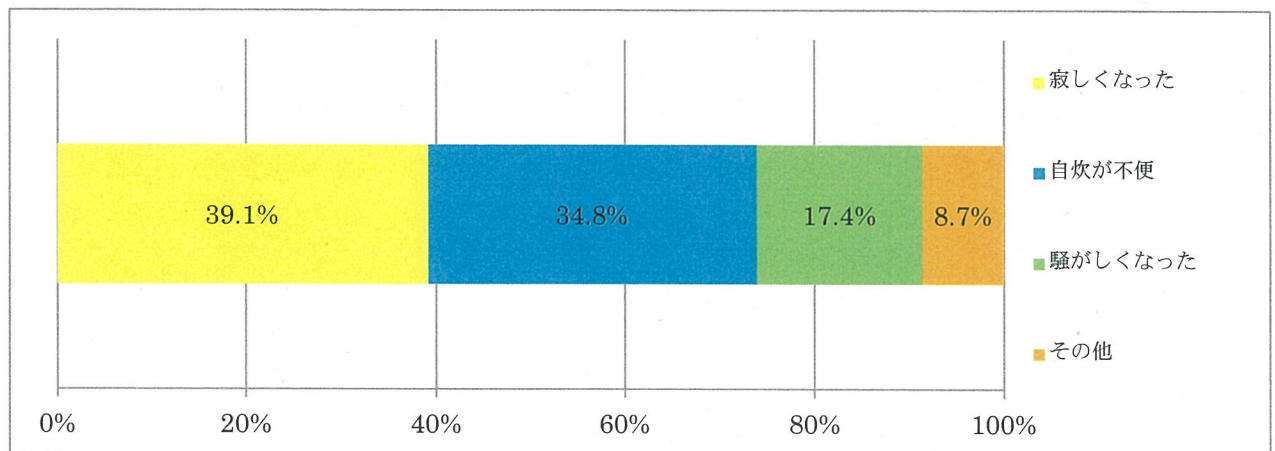
図表 29：『良くなったこと』（複数回答）

n=25



図表 30：『悪くなったこと』（複数回答）

n=18



- ② 中学まで生活していた島にあってほしい、あるべき、整備してほしいと思うものについて

【宮古地区】

島にあってほしい、あるべき、整備してほしいと思うもの	今のままでよい
	コンビニ
	娯楽施設

【八重山地区】

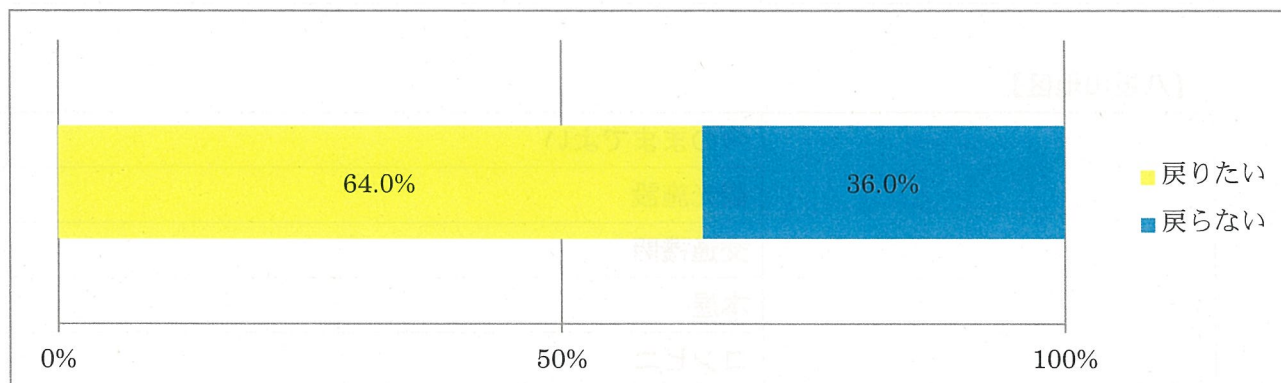
島にあってほしい、あるべき、整備してほしいと思うもの	今のままでよい
	観光施設
	交通機関
	本屋
	コンビニ
	公園
	W i f i
	病院
	遊ぶところ
	たくさんのお店、9時以降に買い物ができるお店
	ネット環境
	スーパーの充実

③ 中学まで生活していた島に戻る気持ちについて

中学まで生活していた島に戻る気持ちは、「戻りたい」が64%となっています。
「戻りたい」とした理由は、「島が好き」が60.9%となっています。
「戻らない」とした理由は、仕事のない(やりたい仕事がない)が43.5%となっています。

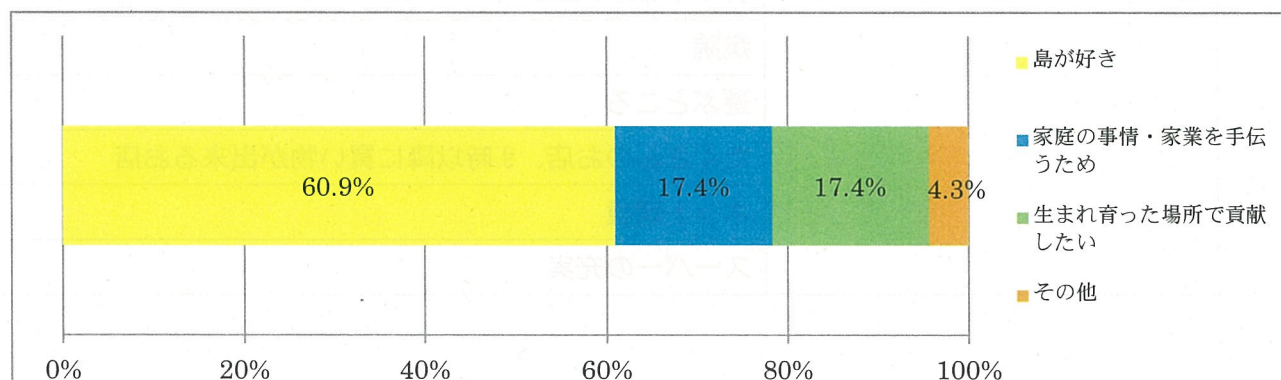
図表 3 1 : 島に戻る気持ちについて

n=25



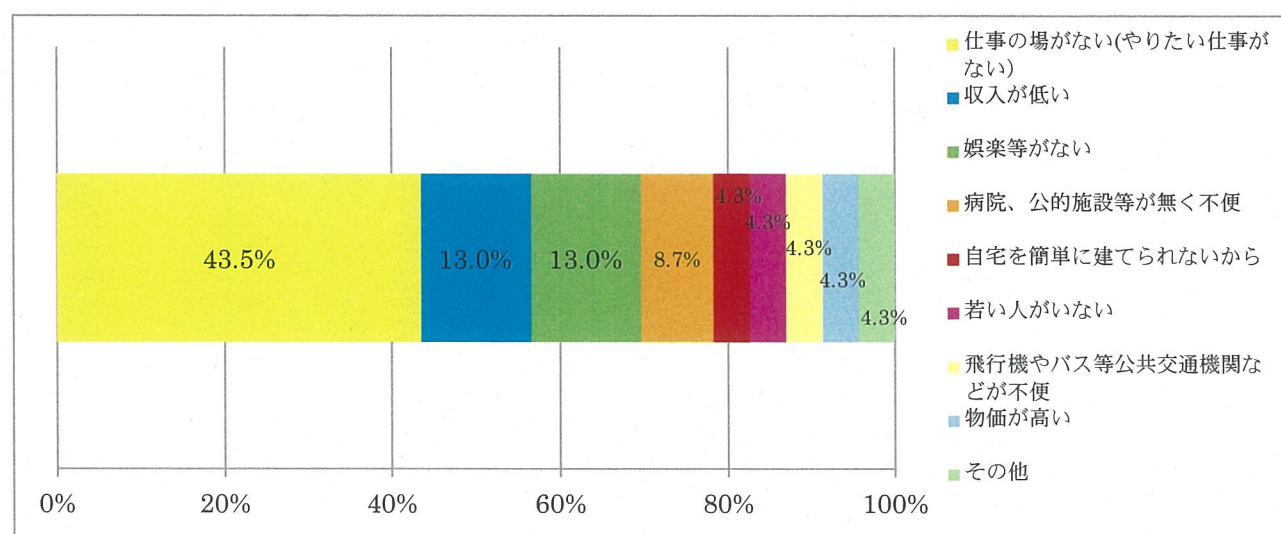
図表 3 2 : 戻りたいと答えた方の理由 (複数回答)

n=16



図表 3 3 : 戻らないと答えた方の理由 (複数回答)

n=9

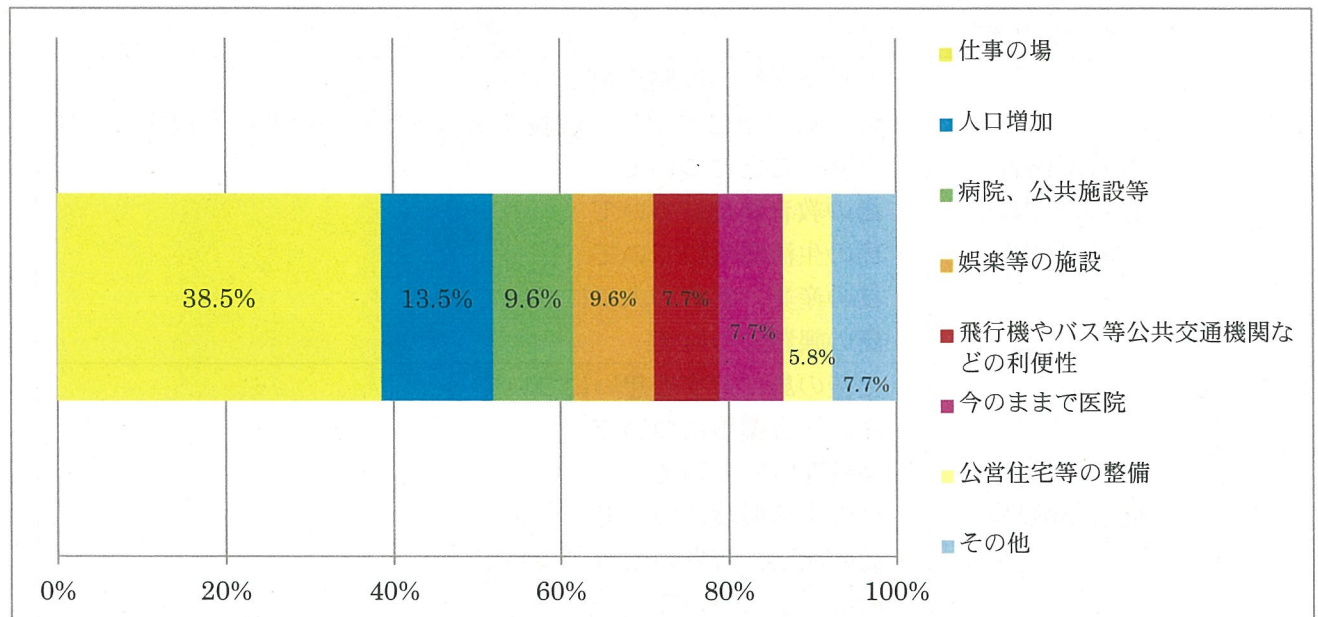


④ 将来、島には何が必要か

将来、島に必要なものは、仕事の間が 38.5%、人口増加が 13.5%となっています。

図表 3 4 : 将来、島に何が必要か

n=25



3. 離島の教育関係者に対するヒアリング調査概要

アンケート結果を踏まえ、その要因や島の現状等について、離島の教育関係者に対してヒアリング調査を実施しました。

○実施概要

ヒアリング者	概要
教育関係者 (宮古島内) (石垣島内)	・ 高校卒業後の進路選択について ・ 仮に島の中に進学先、就職先があっても島の外を選択する生徒が多いことについて ・ 島の教育環境について ・ 島の生活環境について ・ 島の産業、若者の人口について ・ 島の課題について
教育関係者 (周辺小離島)	・ 生徒の島に対する想いについて ・ 島の教育環境について ・ 高校進学について ・ 島の生活環境について ・ 島の産業、若者の人口について ・ 島の課題について

4. ヒアリング調査結果

(1) 宮古島内、石垣島内の教育関係者

①高校卒業後の進路選択について

- ・島の外に出る生徒が多い理由は、島の中に進学先がなく就職先も少ないことから、島の外に出るしかないという現状もあるが、若者としてチャレンジ、スキルアップ、自立という観点から選択しているということも言える。
- ・県外選択にあたっては、特に県外に出た先輩とのSNS等を通じて、他には親類、各県に所在する県人会からの情報をもとに判断している。
- ・沖縄本島に寮を完備した就職先が少ないため、実費負担等が少なく済む県外企業を就職先を選択する点がある。

②仮に島の中に進学先、就職先があっても島の外を選択する生徒が多いことについて

- ・若者としてチャレンジ、スキルアップ、自立という観点から選択していることもあるだろうが、これまで進学先がない、就職先が少ないという理由から、島の外を選択せざるを得なかった状況があるため、それが（島の外に出ることが）当たり前であるとの考えが生徒に浸透している。

③島の教育環境等について

- ・昔に比べて宮古島や石垣島は塾も多くなっている。親も教育熱心ではあるが、塾は高校周辺に多いことから、他の地域の生徒は通えなかったり、金銭的に通えない生徒もいる。
- ・物価や家賃が高いことから生活費にお金がかかることや、賃金が低いといったことから、教育に十分なお金を回せない環境の生徒もいる。

④島の生活環境について

- ・ゆったりしている、自然環境が良い等で満足しているとの回答が多いという点は大人も同じ。
- ・物価が高い、洋服店、スポーツ用品店が少ないことから通販を利用している生徒は多い。その点は大人も同じ。
- ・娯楽施設が島に必要という声が多いのは、映画館、大型ショッピングセンターが無いと思われる。観光客を呼ぶためというより、若者が遊ぶためという意味だと思う。大人からはあまり聞かない。

⑤島の産業、若者の人口について

- ・宿泊、飲食等の観光業が多い。次に農業が多いが、多くの若者を受け入れられる規模ではないことや賃金といった点で、若者が島の外に出ざるを得ない状況である。

⑥島の課題について

- ・就職先が少ないため、島の生活に満足していることや、将来島に戻りたいと答えているにも関わらず、島の外で大学等を卒業、スキルアップした後も島に戻れない状況となっていることから、雇用の創出は必要である。
- ・物価を本島並にもう少し押さえることが必要。また、若者は持ち家をすぐに持てないため賃貸となるが、家賃が高いため家計の支出に占める割合が高くなることから、公営住宅といったものも必要ではないか。

(2) 周辺小離島の教育関係者

①生徒の島に対する想いについて

- ・「将来、中学まで育った島に戻りたい」（周辺小離島の中学出身）という回答が半数を超えているのは、学校と地域が連携する行事（敬老会、豊年祭、伝統行事等）が多いため、地域の人達との触れ合いを通じて、将来自分も地域に貢献、伝統行事を継承したいと考えるからではないか。
- ・大きな課外授業は、親、駐在所、看護師等の協力を得ながら地域ぐるみで行っているため、自分も将来、子どもたちを同じようにサポートしていきたいという愛情が湧いているのではないか。

②島の教育環境について

- ・平成27年度から実証事業として、教育委員会主導の元、各学校の施設において午後7時から9時までの間、東大生が行う双方向遠隔ライブ授業（東大NETアカデミー）を取り入れている。
- ・生活の不便さがあることから、子どもをしっかりと教育していくという考えが親にあり、教育に対する意識は低くはないと考えている。
- ・島から出て高校で友達が増えたと回答した学生が多いが、同じ世代の多くの学生と触れ合うことに戸惑いを持つ学生もいるため、コミュニケーション能力の向上といった点は気にしているところ。
- ・島内の生徒は本島等に比べ人との競争や外部からの刺激があまりないため、すぐに興味を示す子と示さない子が両極端。生で島外企業の仕事を見る機会があり、見た生徒の一部がその職業を将来やってみたいと興味を持ち、英語の勉強を自発的に始めた例もある。生徒には数多くの情報提供等が必要と感じる。

③高校進学について

- ・県が群星寮を開所したため群星寮のある那覇の学校を選択する子が多くなった。親は経済面、生活面で寮の方が安心で助かるという声がある一方、本島よりも近い高校が安心という声もある。
- ・子どもが島から出たときに、周囲との学力差で折れてしまったり、人間関係をうまく形成できないといったことがないように、中学の時に力をつけさせたい。

④島の生活環境について

- ・離島の離島のため物価は高い。部活の遠征や大会は補助が出るが、経済的に厳しいとの声も聞く。

⑤島の産業、若者の人口について

- ・産業は、観光業、農業や兼業農家、土木建設業が主であり若者が望む業種の就職先が無い状況。
- ・中学を卒業すると島の外に出て行き、高校、大学、就職と島の外になってしまうため、若者は少ない状況である。

⑥島の課題について

- ・島の外で一旦就職すると、生活基盤がそこで出来上がってしまう。また、それを捨ててまで戻ってこられるような産業がないため、企業誘致等による地場産業の活性化、生活環境（食住）の整備、雇用の場の提供などは必要である。帰ってくるパターンは村役場への就職、家業を継ぐといったところ。
- ・沖縄の主力産業である「観光」の活性化、観光客の増加を望む。人が増えることにより、生徒（小中学生など）と観光客との人的交流やコミュニケーションなど良い刺激を受ける機会が増加するものと考えられるので期待したい。

Ⅲ. まとめ

今回の調査では、離島の高校3年生を対象に島の現状や課題、島に対する思い、生活の満足度、島の将来等及び高校生が地元の島に対しどのような希望やニーズをもっているかなどの把握、併せて行政（国や自治体）が取り組む離島振興の認識等についてアンケート調査を行ったほか、アンケートの結果を踏まえ、その要因や島の現状等について、離島の教育関係者に対してのヒアリング調査を実施したところ、以下の結果が得られました。

1 調査結果のまとめ

(1) 高校生（3年生）に対するアンケート調査結果

- 進路は進学希望が多く、行き先（本島、県外等）は、大学・短大、就職は県外、専修・専門学校は本島等の県内が多い。（専修・専門学校は、県外の割合も高く差がない状況。）
- 仮に現在予定している進路先と同じ条件の進路先が島にあった場合でも、チャレンジ、スキルアップ、自立といった理由から島の外に出るが多い。
- 島での生活満足度は7割以上が満足しており、また、島の外（本島、県外等）に出ると回答した生徒についても、島が好き、生まれ育った場所で貢献したいという点から、将来は島に戻りたいが多い。
- 島の生活で好きなところは、ゆったりとした雰囲気、自然環境といった順、嫌いなところは、娯楽施設がない、働く場所がないといった順となっている。
- 島がもっている課題は、娯楽施設がない（少ない）、働く場所がない（少ない）といった順、また、島の発展のためには、おしゃれなお店や人気店など、娯楽施設、観光をはじめとする人が来る仕組みや環境の順となっている。
- 行政が取り組む離島振興の認識は、知っているが少なく、知らない、又は聞いたことはあるが8割強となっている。また、行政に対する要望は、スポーツ、商業、娯楽施設などを作りたい、移動コスト（飛行機、船）を安くの順となっている。
- 周辺離島（多良間村、竹富町、与那国町）の中学出身の生徒の意識として、
 - ・中学までの生活と今の生活の変化で良くなったことは、買い物が便利、友達が増えた、親への感謝の気持ちの順、悪くなったことは、自炊が不便、寂しくなったの順となっている。
 - ・中学まで生活した島にあってほしいものは、コンビニ、娯楽施設、病院といったことが挙げられている。
 - ・中学まで生活した島に戻る気持ちは、島が好き、家庭の事情・家業を手伝うため、生まれ育った場所で貢献したいといった点から戻りたいが多く、将来島に必要なものとして、仕事の場、人口増加の順となっている。

(2) ヒアリング調査結果

①宮古島内、石垣島内の教育関係者

- 卒業後、島の外に出る生徒が多いことや、仮に進学先、就職先が島にあっても島の外を選択する生徒が多いのは、島の外に出るしかないという現状もあるが、若者はチャレンジ、スキルアップ、自立という観点からそういう選択をするものである。
- 昔に比べて塾も多くなっている。親も教育熱心ではあるが、周辺にはなく通えなかったり、金銭的な面で通えない生徒もいる。

○島の産業は、宿泊、飲食等の観光業が多い。次に農業の割合が多いが、多くの若者を受け入れられる規模ではないことや賃金といった点で、若者が島の外に出ざるを得ない状況である。

○島の生活に満足しており、将来島に戻りたいと答えているにも関わらず、島の外の大学等を卒業、スキルアップした後も島に戻れない状況であり雇用の創出は必要。また、物価を本島並にもう少し押さえることや、若者は持ち家をすぐ持てないため賃貸となるが、家賃が高いため家計の支出に占める割合が高くなることから、公営住宅といったものも必要ではないか。

②周辺小離島の教育関係者

○中学まで育った島に戻りたいの回答が半数を超えていることは、学校と地域が連携する行事が多いため、地域の人達との触れ合いを通じて、地域貢献、伝統行事の継承を考える生徒が多いのではないか。

○塾がないことから、教育委員会主導の元、各学校の施設において午後7時から9時までの間、東大NETアカデミーにより、東大生が行う双方向遠隔ライブ授業を取り入れている。

○生活の不便さがあることから、子どもをしっかりと教育していくという考えが親にあり、教育に対する意識は低くはないと考えている。

○県が群星寮を開所したため群星寮のある那覇の学校を選択する子が多くなった。親は経済面、生活面で寮の方が安心して助かるという声がある一方、本島よりも近い方の高校が安心という声もある。

○島から出て高校で友達が増えた学生が多いが、同じ世代の多くの学生と触れ合うことに戸惑いを持つ学生もいるため、コミュニケーション能力の向上といった点は気にかけているところ。

○島の外で一旦就職すると、生活基盤がそこで出来上がってしまう。また、それを捨ててまで戻ってこられるような産業がないため、企業誘致等による地場産業の活性化、生活環境（食住）の整備、雇用の場の提供などは必要である。

2 調査から得られた結果

離島の高校生は、島内に大学等がないことから、高校卒業後に島から出る生徒が多いことは周知の事実であり、今回、初めて離島の高校生を対象に行ったアンケートでも、現在予定している進路の所在は、島の外が多いという結果となりましたが(85.3%)、その理由は、島の外にしかない(24.5%)以外にも、チャレンジ(19.9%)、スキルアップ(19.7%)、自立(15.7%)の3つを併せると高い割合(55.3%)となっており、また、仮に現在予定している進路等が島にあった場合であっても、島の外を選択するが多く(72.7%)、その理由も、前記したチャレンジ等の3つが高く(76.2%)、若者として外に出る意識が高いことの結果が得られました。

その一方、将来は島に戻りたいという気持ちが高い(63.9%)ことから、大学等終了後や、スキルや経験を積んだ若者が、島に戻って来られるよう、または他地域の若者が島に移り住むことができるよう、雇用の場や住みやすい環境（物価、住環境）作りが必要であると同時に、若者が楽しめる環境も求められているという結果が得られました。

平成28年12月1日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

財政教育プログラム 沖縄初開催

(琉球大学教育学部附属中学校)

財政教育プログラムとは

全附連（全国の国立大学附属学校園の連合体）と財務省・財務局がタイアップした財政教育授業です。

子どもたちに対するニュートラルな主権者教育の一環として、国の財政から、この国のあり方について広く子どもたちに興味を持ってもらい、自分たちの国の未来について考え、判断できる子どもたちを育成することを目的としています。

全附連と財務省近畿財務局との連携のもと、平成27年6月に大阪教育大学附属平野小学校で開催した第1回目の授業を皮切りに、現在、全国へ展開しています。

沖縄では、今回の琉球大学教育学部附属中学校での授業が初開催となります。

1. 開催日時：平成28年12月8日（木） 10：00～12：00

講師：財務省大臣官房文書課 當間課長補佐（琉大附属中学校OB（14期生））

※午後はキャリア教育の一環として、当講師による講話を予定しています。

2. 場所：琉球大学教育学部附属中学校

3. 対象：3年生80名（2クラス）



（平成28年9月1日 大阪教育大学附属平野小学校6年生に対する授業の様様）

今回の琉大附属中学校の財政教育プログラムでは、まず、身近な社会保障の例を取り上げ、財政を含めた社会の課題に興味を持ち、「自分事」として考えられるよう、説明を行います。次に、タブレット端末等を活用して、子どもたち自らが、実際に予算編成を行い、社会や経済に与える影響を考えながら生徒同士で議論を行う「アクティブ・ラーニング」を実施いたします。最後に、国全体で異なる意見を集約していく為に、重要な参政権を学びます。このような、一連の流れを通して、財政を題材とした主権者教育を実施することを目的しております。

問い合わせ先

内閣府沖縄総合事務局

財務部財務課（担当者：嵩原、宮里）

TEL：098-866-0091 FAX：098-860-1152

平成28年12月1日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

国有財産の売払い（一般競争入札）について

沖縄総合事務局は、県内に所在する未利用の国有財産（6件）について、平成29年1月10日（火）から1月20日（金）を受付期間として、平成28年度の一般競争入札（期間入札）による売払（開札日：平成29年2月6日（月））を予定しております。

○ 入札には、受付期間内に入札書を沖縄総合事務局財務部に郵送又は持参することにより参加することができます。

○ 全ての物件において最低売却価格を公表する予定です。価格情報をあらかじめ公表することにより、不動産取引に不慣れな個人や事業者の方でも資金計画を考えるにあたって対策を立てやすくなるので、入札に参加しやすくなっています。

1. 国有財産の一般競争入札（期間入札）

売払物件数は、那覇市1件、名護市3件、豊見城市1件、うるま市1件の計6件を予定しており、売払スケジュールは下記のとおりです。

【公示日（予定）】 平成28年12月15日（木）

【受付期間（予定）】 平成29年1月10日（火） ～ 1月20日（金）

【開札日時（予定）】 平成29年2月6日（月）午前10時～

2. 最低売却価格の公表

全ての物件において、一般競争入札の公告等で最低売却価格を公表する予定です。

最低売却価格とは国が売却する下限の価格であり、この金額以上の価格で、最も高い価格をつけていただいた方にご購入いただくことになります。

※ 沖縄総合事務局では、より多くの皆様が、今回の一般競争入札（期間入札）に参加いただけるよう広告及びインターネット等を通じて広く情報を提供するほか、メールマガジンへの登録者には、ホームページ更新情報を提供しております。

<問い合わせ先>

沖縄総合事務局財務部

統括国有財産管理官（担当：今中統括官）

（住所） 那覇市おもろまち2丁目1番1号

那覇第2地方合同庁舎2号館10階

（電話） 098-866-0097

（ファクシミリ） 098-860-1168

（ホームページ） <http://www.ogb.go.jp/zaimu/007612.html>



国有地一般競争入札のお知らせ



○公示日(予定) 平成28年12月15日(木)
○受付期間(予定) 平成29年1月10日(火)午前9時～1月20日(金)午後5時まで
○開札日(予定) 平成29年2月6日(月)午前10時から

- ① 個人・法人どなたでも参加できます。
- ② 一般競争入札は郵送又は持参による受付となります。
- ③ 一般競争入札に参加するには入札金額(最低売却価格ではない)の5%以上の入札保証金が必要です。
- ④ 登記簿地目が畑となっている物件については、落札後に農業委員会等への許可もしくは届出の手続きが必要となります。

*** 最低売却価格以上で、かつ最高金額の入札をした方にお売りします。**

※公示日以降、入札案内書を無料で配付します。

入札は、必ず現地を十分に確認してから参加するようお願いします。

物件番号	所在地	現況地目 (登記簿地目)	面積	坪数	最低売却価格	用途地域 (建ぺい率/容積率)
2801	那覇市西三丁目10番33	宅地 (雑種地)	1,647.55㎡	約498坪	公表予定	第二種住居地域 (60%/200%)
		住宅建 (RC3階建)	建)305.02㎡ 延)667.36㎡	約92坪 約201坪		
		雑屋建 (CB造)	建)20.58㎡ 延)20.58㎡	約6坪 約6坪		
2802	名護市大東三丁目2318番1外1筆	宅地 (宅地)	1,359.93㎡	約411坪	公表予定	第一種中高層住居専用地域 (60%/200%)
		公衆用道路 (公衆用道路)	101.21㎡	約30坪		
		住宅建 (RC3階建)	建)229.51㎡ 延)679.88㎡	約69坪 約205坪		
		住宅建 (RC3階建)	建)127.08㎡ 延)372.61㎡	約38坪 約112坪		
2803	名護市大北一丁目4143番2外1筆	宅地 (宅地)	398.52㎡	約120坪	公表予定	第二種低層住居専用地域 (50%/100%) 第一種低層住居専用地域 (40%/80%)
		住宅建 (RC2階建)	建)135.36㎡ 延)270.72㎡	約40坪 約81坪		
2804	名護市宇伊差川喜知留原214番20	宅地 (宅地)	2,158.70㎡	約653坪	公表予定	第一種中高層住居専用地域 (60%/200%)
		住宅建 (RC4階建)	建)247.52㎡ 延)737.60㎡	約74坪 約223坪		
		住宅建 (RC4階建)	建)224.87㎡ 延)581.48㎡	約68坪 約175坪		
		雑屋建 (RC1階建)	建)5.40㎡ 延)5.40㎡	約1.6坪 約1.6坪		
		雑屋建 (RC1階建)	建)5.04㎡ 延)5.04㎡	約1.5坪 約1.5坪		
2805	豊見城市宇平良大城原240番198	宅地 (宅地)	1,280.42㎡	約387坪	公表予定	第一種低層住居専用地域 (50%/100%)
2806	うるま市勝連津堅仲原883番外12筆	畑 (畑)	3,334.96㎡	約1,008坪	公表予定	未指定地域 (60%/200%)

案内書の配付及びお問い合わせ先

沖縄総合事務局財務部統括国有財産管理官 TEL: 098-866-0097 (担当: 田港・池原・東盛) 〒900-8530 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎10階	宮古財務出張所 TEL: 0980-72-4774 〒906-0013 宮古島市平良字下里1016平良地方合同庁舎3階	八重山財務出張所 TEL: 0980-82-4941 〒907-0004 石垣市宇登野城55-4石垣地方合同庁舎3階
---	---	--

ホームページアドレス <http://www.ogb.go.jp/zaimu/007612.html>
 入札情報を随時発信するメールマガジンへの登録は
<http://www.kokuyuzaisan-info.mof.go.jp/kokuyu/>

沖縄総合事務局 国有地 検索
 国有地 メルマガ 検索



物件番号2801

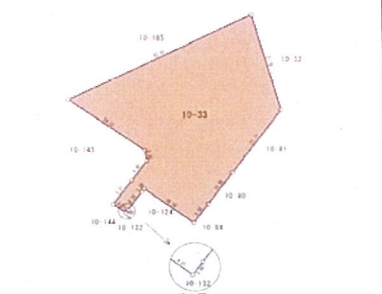
那覇市西三丁目10番33

1,647.55㎡

最低売却価格：公表予定

現況地目(宅地)・登記地目(雑種地)

用途地域：第二種住居地域(60/200%)

案内図	明細図	写真
		

物件番号2802

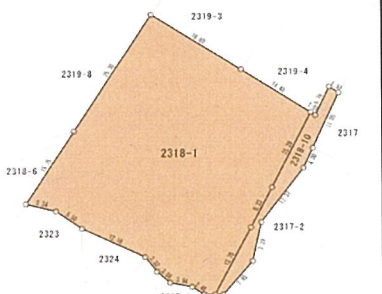
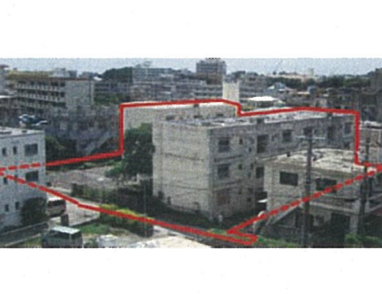
名護市大東三丁目2318番1外1筆

1,461.14㎡

最低売却価格：公表予定

現況地目(宅地)・登記地目(宅地) 1,359.93㎡
現況地目(公衆用道路)・登記地目(公衆用道路) 101.21㎡

用途地域：第一種中高層住居専用地域(60/200%)

案内図	明細図	写真
		

物件番号2803

名護市大北一丁目4143番2外1筆

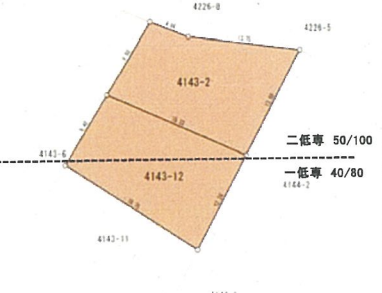
398.52㎡

最低売却価格：公表予定

現況地目(宅地)・登記地目(宅地)

用途地域：第二種低層住居専用地域(50/100%)

第一種低層住居専用地域(40/80%)

案内図	明細図	写真
		

物件番号2804

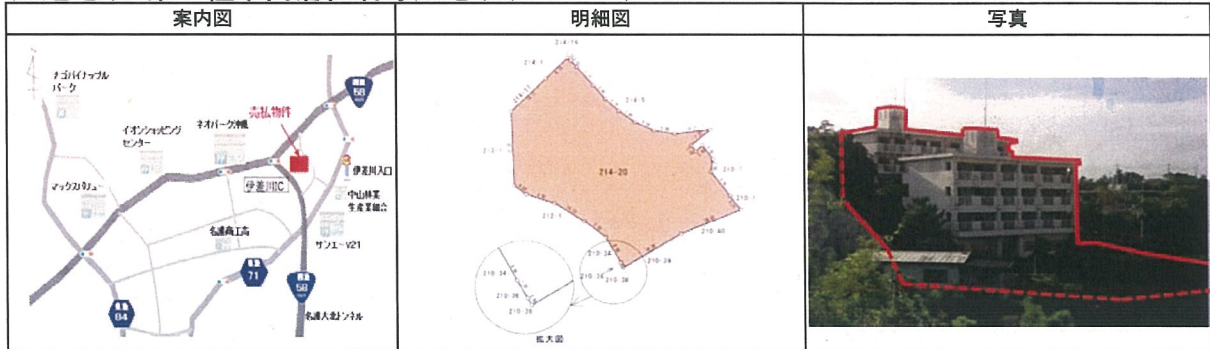
名護市字伊差川喜知留原214番20

2,158.70㎡

最低売却価格：公表予定

現況地目(宅地)・登記地目(宅地)

用途地域：第一種中高層住居専用地域(60/200%)



物件番号2805

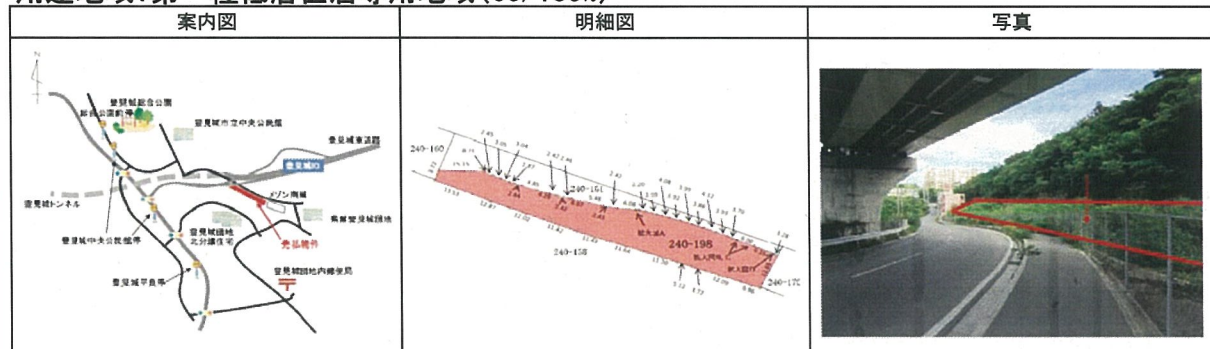
豊見城市字平良大城原240番198

1,280.42㎡

最低売却価格：公表予定

現況地目(宅地)・登記地目(宅地)

用途地域：第一種低層住居専用地域(50/100%)



物件番号2806

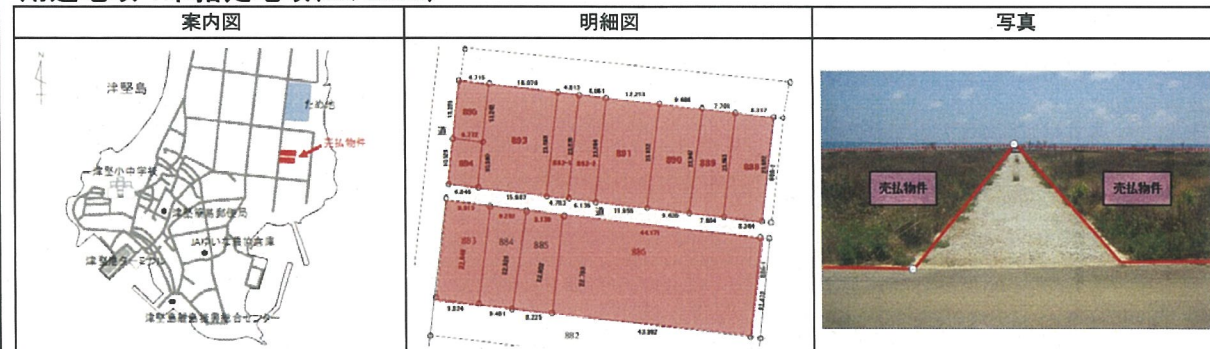
うるま市勝連津堅仲原883番外12筆

3,334.96㎡

最低売却価格：公表予定

現況地目(畑)・登記地目(畑)

用途地域：未指定地域(60/200%)



「活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会」の開催について

将来、地域農業の担い手と期待される農業高校生徒に対し、農業への関心をより深め、更に就農意欲を高めるため、県内で活躍する女性農業者による「活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会」を開催します。

1. 開催日時及び開催場所

【沖縄県立北部農林高等学校】

日 時：平成28年10月25日（水曜日）10時00分～12時10分

場 所：沖縄県立北部農

所在地：名護市字宇茂佐13

開催は終了しました

【沖縄県立南部農林高等学校】

日 時：平成28年11月15日（水曜日）10時00分～11時00分

場 所：沖縄県立南部農

所在地：豊見城市字長堂102

開催は終了しました

【沖縄県立中部農林高等学校】

日 時：平成28年12月13日（火） 11時20分～13時10分

場 所：沖縄県立中部農林高等学校

所在地：うるま市田場1570

2. 目的と内容

（1）目的

地域における女性農業者は、今や自身の農業経営だけでなく、女性ならではのアイデアと感性を活かした農業生産や六次産業化を展開することにより、地域の活性化においても重要な役割を担っています。そこで、将来、農業を職業として選択しようとする農業高校生徒に、地域で活躍する女性農業者から沖縄の農業の魅力や取組などについて講演していただきます。

講演していただく農業女子プロジェクトメンバー及び女性農業士は、日々の生活や仕事の中で得た知恵、情報を発信する活動や地域の農業の担い手の育成・指導に取り組んでいる地域のリーダーです。

(2) 内容

- ①新規就農者に対する支援施策の紹介
- ②農業女子プロジェクトの紹介
- ③「農業の魅力と就農するまで」
(講演者：農業女子プロジェクトメンバー)
- ④「女性農業士としての役割」
(講演者：女性農業士)
- ⑤意見交換

3. 共催

沖縄総合事務局
沖縄県立北部農林高等学校
沖縄県立中部農林高等学校
沖縄県立南部農林高等学校

4. 報道関係者の皆様へ

取材、カメラ取りを希望される場合は、事前に別紙の取材申込書に、社名、氏名、連絡先、TV カメラの有無等を御記入のうえ、以下の日時までに申込先へFAXにてお申し込み下さい。

○沖縄県立中部農林高等学校：平成28年12月9日（金）17時まで

<添付資料>

(別紙)「活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会」取材申込書

〔お問合せ及び申込先〕

沖縄総合事務局 農林水産部 経営課
担 当：尾川原、下地、中川
電 話：098-866-1628
FAX：098-860-1179

別紙

沖縄総合事務局農林水産部経営課 下地 宛て

電 話：０９８－８６６－１６２８

FAX：０９８－８６０－１１７９

「活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会」
～中部農林高等学校 １２月１３日（火）開催～

取材申込書

開催日時：平成２８年１２月１３日（火） １１：２０ ～ １３：１０

開催場所：沖縄県立中部農林高等学校 うるま市田場 1570

社名（支局等）	氏名	記者、カメラマンの区分

代表連絡先

（会社電話）

緊急連絡先

（携帯電話）

※取材を希望される場合は、１２月９日（金）１７時までに、別紙により担当者あてにFAXでお申し込み下さい。

※取材を希望される報道関係者の方は、当日記者証等の身分証をご提示いただきますので、あらかじめご了承ください。

※上記の個人情報は、「活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会」の取材者の確認のみに利用し、それ以外のことには利用いたしません。

「活躍する農業女子による農業の魅力と可能性を伝える講演会」の開催について

1. 目的

地域における女性農業者は、今や自身の農業経営だけでなく、女性ならではのアイデアと感性を活かした農業生産や六次産業化を展開することにより、地域の活性化においても重要な役割を担っております。そこで、将来、農業を職業として選択しようとする農業高校生徒に、地域で活躍する女性農業者から沖縄の農業の魅力や取組などについて講演会を開催いたします。

講演していただく農業女子プロジェクトメンバー及び女性農業士は、日々の生活や仕事の中で得た知恵、情報を発信する活動や地域の農業の担い手の育成・指導に取り組んでいる地域のリーダーとなります。

2. 開催日時・場所及び講演内容

沖縄県立中部農林高等学校

日 時：平成28年12月13日（火）11時20分～13時10分

場 所：沖縄県立中部農林高等学校（うるま市田場1570）

講演内容：①新規就農者に対する支援施策の紹介

紹介者：中川益子（沖縄総合事務局農林水産部経営課）

②農業女子プロジェクトの紹介

紹介者：中川益子（沖縄総合事務局農林水産部経営課）

③「農業の魅力と就農するまで」

講演者：上里さゆり（農業女子プロジェクトメンバー）

④「女性農業士としての役割」

講演者：照屋和江（女性農業士）

⑤意見交換

○上里さゆり（豊見城市）



- ・平成22年7月：販売促進のための企業リサーチ会社を退職後、糸満市にて就農を開始（現在は豊見城市で就農）。
- ・平成26年3月：女性農家グループで「まんまるしえ」を設立し、代表を務める。
- ・平成26年7月：「農業女子プロジェクト」のメンバーとなり、農業で活躍する女性の姿や活動などをSNSを利用し情報を発信。
- ・平成28年9月：女性活躍推進セミナーのパネリストを務める。
- ・現在～：若手の女性農業者の指導・育成などに取り組むとともに、スイートバジル、ローズマリー、イタリアンパセリなどのハーブを栽培。

○照屋和江（恩納村）



- ・平成17年9月：結婚後、地元の恩納村にて就農を開始。
- ・平成24～27年：熱帯果樹生産部会の副会長を2期、務める（JA恩納支店）。
- ・平成26年4月：「女性農業士」として沖縄県知事から認定される。
- ・平成21～26年：沖縄県果樹フェスティバルにて最優秀賞（2回）、優秀賞（2回）、優良賞（1回）を受賞。
- ・現在～：地域の女性部会において技術指導や相談役として取り組むとともに、「てるてるファーム」の代表としてパッションフルーツ、アテモヤを栽培。

平成28年12月1日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

「北部ダムツーリズム」の推進に向けた 旅行業界との現地見学会を開催

沖縄総合事務局ではダムやダム湖を地域の資源として捉え、水源地やんばるの自然の魅力を活かした観光、交流活動を通して森や水の大切さを体感できる「沖縄北部ダムツーリズム」を推進しています。

今回、その一環として県内旅行業界（（一社）日本旅行業協会 沖縄支部）と現地見学会を開催します。平成26年、平成27年に引き続き、今年で3回目の開催となります。

参加者には、ダムやダム湖、その周辺素材を活かした北部地域の魅力について体感して頂き、地元NPOや自治体と観光素材としての可能性について意見交換も行います。

1. 開催日：平成28年12月6日（火）・・・別紙1（行程表）参照
2. 場 所：大保ダム、大宜味村内各所・・・別紙2（地図）参照
3. 取材について：同行及び撮影について可能です。・・・別紙1及び別紙3参照

<昨年の開催状況>



湖面遊覧（ゴンミキ号：福地ダム）



サキシマスオウノキ（東村）



意見交換会

問い合わせ先
内閣府沖縄総合事務局
開発建設部 河川課
課長 安藤 詳平
TEL：098-866-1911
FAX：098-861-5274

北部ダムツーリズムの推進に向けた現地見学会

行程表 概要

10:40 ～ 12:05

シークワサーパーク

- ・施設見学
- ・シークワサー収穫体験

移動（石山展望台経由）・昼食

13:25 ～ 14:40

大保ダム

- ・大保ダム堤体見学
- ・ダム湖 カヌー体験

15:05～ 15:35

芭蕉布会館

- ・施設見学

15:45～ 16:00

大宜味村旧庁舎

- ・施設見学

16:00～ 16:50

意見交換会

取材にあたっての留意事項

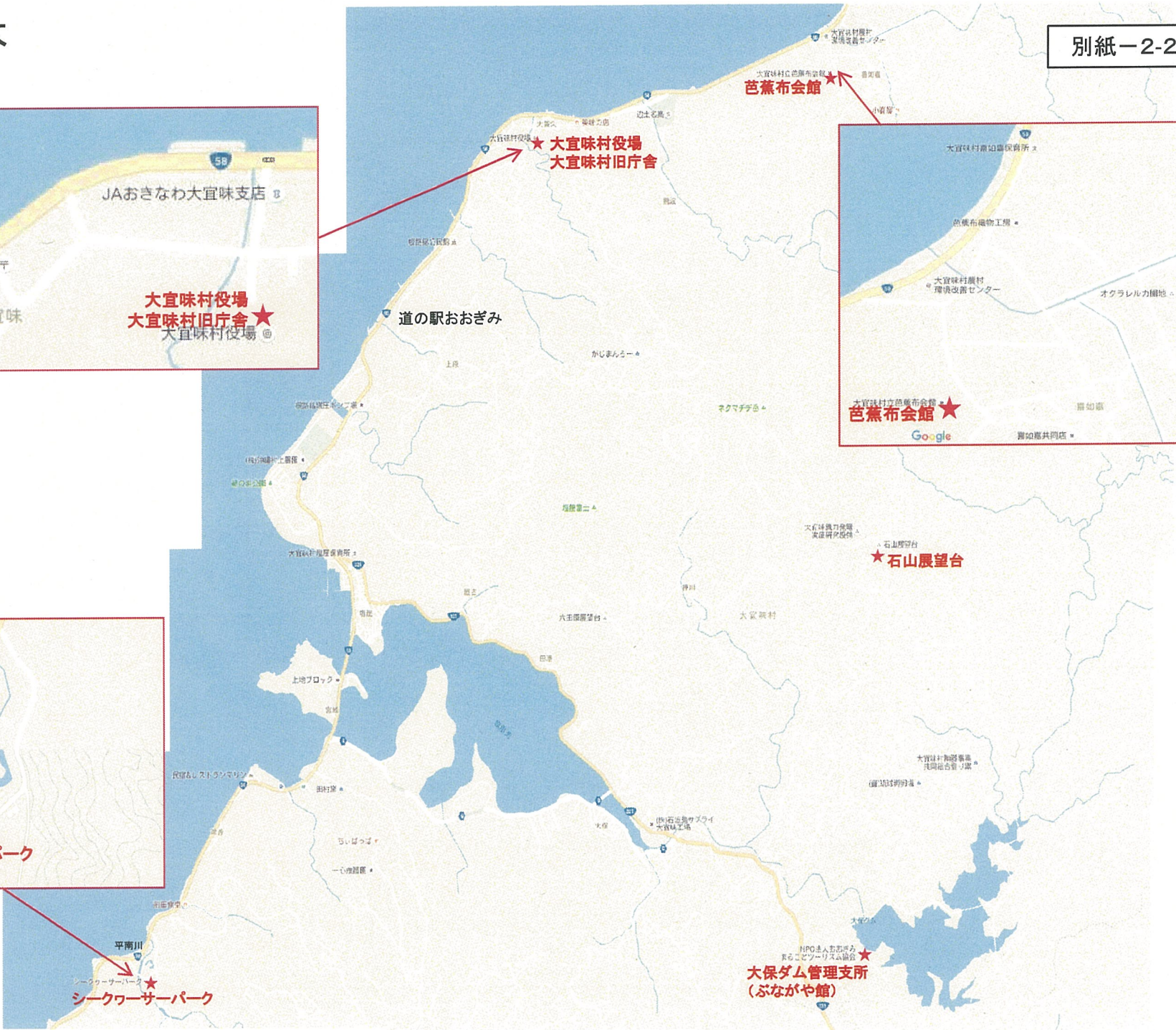
- ※ 行程上どの箇所で取材を希望するかあらかじめご連絡ください。
- ※ 現地間等の移動手段は各自確保をお願いします。
- ※ 天候状況等により中止や行程に変更が生じる可能性があります。



※大保ダム(堤体見学及びカヌー体験)の出発は大保ダム管理支所(ぶながや館)となります。

周边图扩大

別紙-2-2





別紙-3

取材申込表

送付先: 沖縄総合事務局河川課 あて

FAX: 098-861-5274

会社名	氏名	連絡先	取材希望場所	備考
		TEL: FAX:		
		TEL: FAX:		
		TEL: FAX:		

※平成28年12月2日(金)17:00までに送付をお願いします。

※取材希望場所について、記載をお願いします。全てに同行される場合は「全て」と記載してください。

※一社で複数名で来られる場合は、氏名欄に代表者名を記載し、参加合計人数を備考欄に記載してください。



問い合わせ先 (代表 098-866-0031)

- ・陸上交通関係：監査指導課 高 良 (内85401)
- ・ " (モノレール)：車両安全課 加 島 (内85442)
- ・海上交通関係：運航労務監理官 具志堅 (内85490)
- ・その他安全総点検関係：企画室 新城 (内85243)

平成28年度 年末年始の輸送等に関する安全総点検の実施について ～輸送機関等における事故やテロの防止対策実施状況等の点検～

平成28年12月1日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局運輸部

大量の輸送需要が発生し、輸送機関等に人流・物流が集中する年末年始は、ひとたび事故等が発生した場合には大きな被害となることが予想されます。

このため沖縄総合事務局では、多客繁忙期である年末年始に、輸送機関等が安全対策の実施状況等を自主点検することにより、公共交通の安全を図るとともに、輸送機関等の安全に対する意識を高めることを目的とする「年末年始の輸送等に関する安全総点検」の取組を実施いたします。

1 期間

平成28年12月10日(土)～平成29年1月10日(火)

2 重点点検事項

輸送機関等(軌道交通、自動車交通、海上交通、利用運送業)が、安全管理・安全対策等の実施状況、関係法令等の遵守状況、施設等の点検整備状況、テロ対策等の実施状況等を点検します。

今年度の総点検においては、以下の4点の点検に特に留意して行います。

- (1) 安全管理(特に乗務員の健康状態、過労状態の確実な把握、乗務員に対する指導監督体制)の実施状況
- (2) 自然災害、事故等発生時の乗客等の安全確保のための通報・連絡・指示体制の整備・構築状況
- (3) テロ防止対策等のための警戒体制の整備状況や乗客等の安心確保のための取組、テロ発生時の通報・連絡・指示体制の整備状況及びテロ発生を想定した訓練の実施状況

3 事業者に対する立入点検

次の事業者に対し立入点検を実施します。

- (1) モノレール、バス、タクシー、トラック事業者等(9者)
- (2) 各港に停泊中の船舶(16隻)

(12月 定例記者会見資料)

沖縄総合事務局の今後の行事予定（12月1日～1月18日）

[illegible]

2016

沖縄総合事務局十大ニュース



平成 28 年 12 月

内閣府 沖縄総合事務局

★沖縄スポーツ産業クラスター形成の推進

沖縄総合事務局では、沖縄の様々な特色ある地域資源を融合させた、国際的な沖縄スポーツ産業クラスター形成に向け、中長期的な戦略の検討等に取り組んでいます。具体的には、スポーツ産業イノベーションフォーラム（2月）、沖縄スポーツ産業クラスター検討会議（10月）等を開催し、有識者との議論を通じて、国内外から沖縄に誘引力を高めるための核づくりなどの検討を行っています。



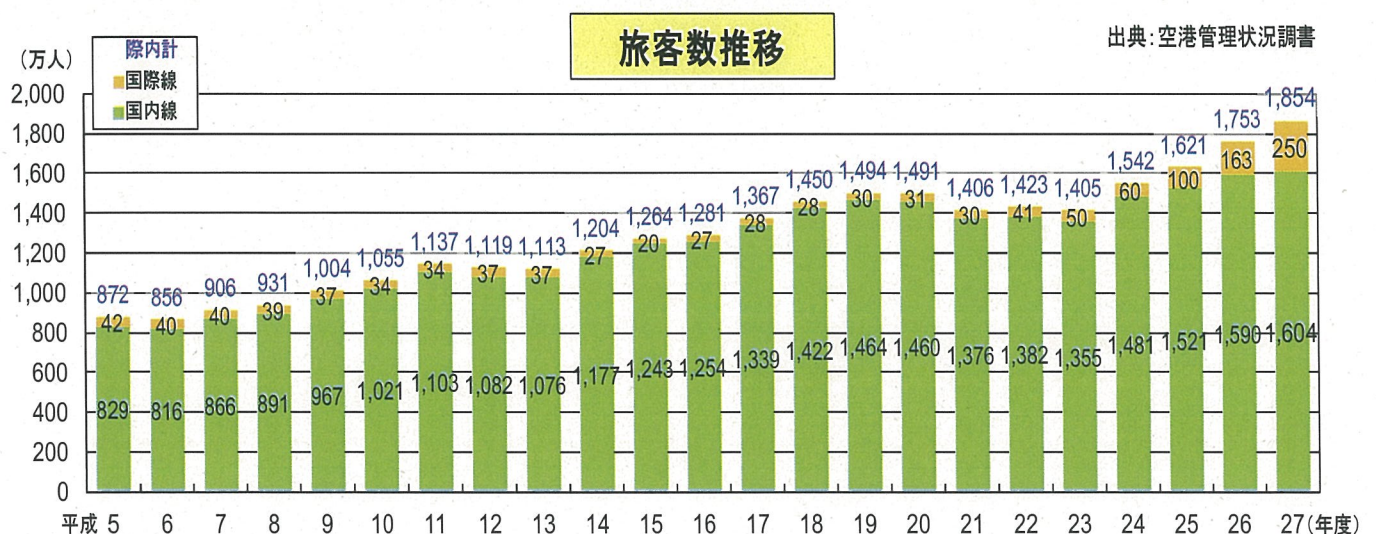
スポーツ産業イノベーションフォーラム in うるま市
(平成28年2月28日)



第1回 沖縄スポーツ産業クラスター検討会議
(平成28年10月1日)

★那覇空港 平成27年度の旅客数が過去最高に！

平成27年度の旅客数が1,854万人と過去最高を記録しました。特に、国際線は、4年間で約5倍の250万人と大幅に伸びました。



需要の増加に対応するため、引き続き、滑走路増設事業や国際線ターミナル地域再編事業に取り組んでいきます。

★TEC-FORCE隊員を熊本へ派遣

熊本地震による二次災害防止のため、4月から5月にかけて緊急災害対策派遣隊（TEC - FORCE）を派遣しました。全国の隊員のべ7,238人のうち当局からは、延べ138人が活動しました。現地では、土砂災害危険箇所調査43箇所、被災建築物応急危険度判定57件の他、町道橋梁、町営グラウンドなどの被災状況調査を行い、首長から感謝の言葉をいただきました。



被災状況調査班（砂防）の様子
（土砂災害危険箇所点検）



被災状況調査班（建築物判定）の様子
（応急危険度判定）

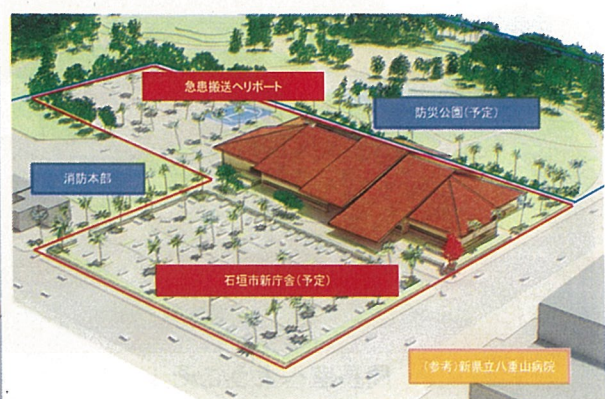
★地域と連携 ～まちづくりに貢献する国有財産～

地域と連携した、国公有財産の最適利用「エリアマネジメント」の取組みを進めており、5月には運動広場（名護市）、6月には産業支援住宅（東村）の整備のため、国有財産を売却しました。

また、浦添市の公務員宿舎敷地を保育施設用地や災害拠点病院用地として活用することや、旧空港跡地を石垣市の新庁舎用地などで活用することを決定するなど、地域のニーズに応じた国有財産の有効活用を図ることで、まちづくりに積極的に貢献しています。



名護市 国有地の売買契約調印式



石垣市 石垣市新庁舎（イメージ図）

★那覇空港の農産物等輸出拠点化の検討

5月に策定された政府の「農林水産業の輸出力強化戦略」において、那覇空港の国際物流ハブ化に向けた構想を検討することが盛り込まれました。農林水産省を中心に検討が進められており、当局においても、この機会に沖縄産農林水産物の一層の輸出促進を図るため、沖縄関係者による協議会の開催等を通じて検討を進めています。



「輸出力強化戦略」沖縄ブロック説明会



沖縄地域農林水産物等輸出促進協議会

★子ども見学デーを初開催

8月3日、子どもたちが広く社会を知る体験活動の機会を設けるとともに、行政の仕事に関心を持ってもらい、理解を深めてもらうことを目的として「子ども見学デー～夏休み、総合事務局でまなぶ、あそぶ！～」を開催しました。

一日こども局長、防災について学ぶ、お金の働きについて学ぶ、牛の乳しぼり体験など22の企画を催し、567名の皆様にお越しいただきました。



局長室へようこそ！



省エネ教室

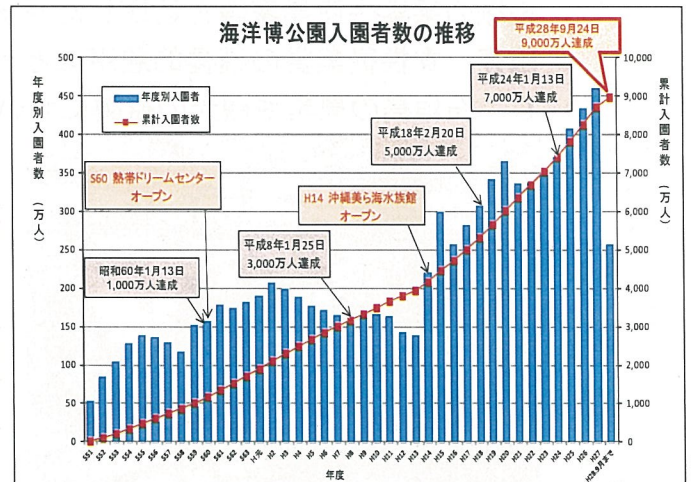
★海洋博公園 入園者累計9,000万人達成！

海洋博公園は昭和51年8月1日の開園以来41年目を迎え、この度、平成28年9月24日（土）に入園者累計9,000万人を達成しました。

9,000万人目の入園者は、研修の一環で同僚らと沖縄を訪れたタイ人の女性の観光客の方で、9,000万人目の認定証と記念品を贈呈しました。



9,000万人目の入園者と関係者で記念撮影



★沖縄県タクシー運賃改定

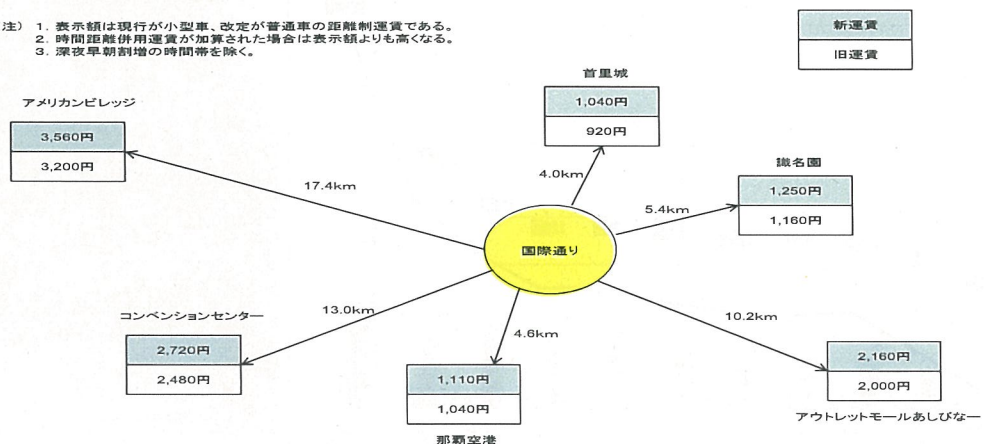
沖縄本島地区では9年ぶり（11月1日）、離島地区では8年ぶり（10月1日）にタクシーの運賃が改定されました。

併せて、タクシーの車種を「中型車」及び「小型車」と区分していたものを「普通車」に統合しました。

※初乗り運賃（上限）は、本島地区で「小型車500円」→「普通車550円」、離島地区で「小型車430円」→「普通車460円」になりました。

新旧上限運賃の比較例（沖縄本島地区）

（注）1. 表示額は現行が小型車、改定が普通車の距離制運賃である。
2. 時間距離併用運賃が加算された場合は表示額よりも高くなる。
3. 深夜早朝割増の時間帯を除く。



★伊盛牧場が農林水産祭で天皇杯を受賞

農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催による平成 28 年度（第 55 回）農林水産祭において、石垣市で酪農を営む伊盛牧場が、11 月 23 日に最高賞の天皇杯（畜産部門）を受賞されました。

伊盛牧場では、暑熱に強い牛群改良や粗飼料の完全自給に取り組むとともに、地域の果実生産農家等と連携したジェラート生産、直営店や新石垣空港内での販売、女性従業員の積極的雇用など、地域社会と密接に結び付いた経営を展開し、石垣島の農業や観光の振興に大いに貢献されています。



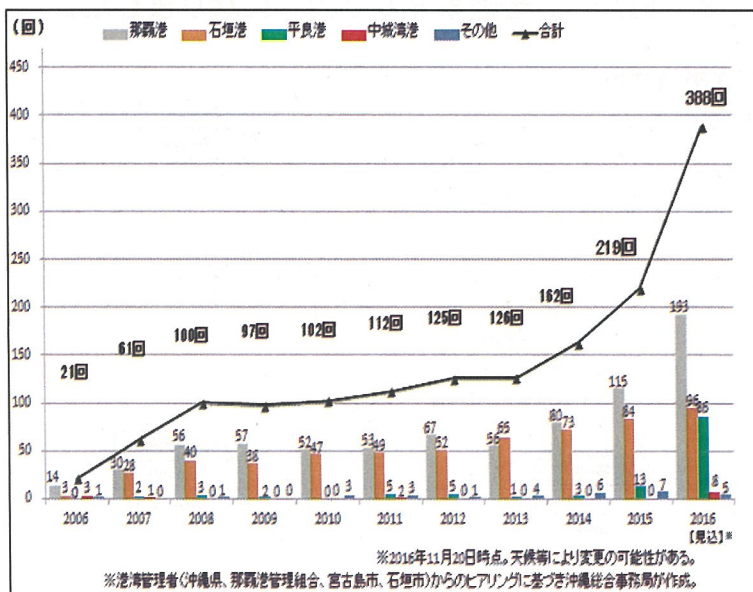
代表取締役の伊盛米俊氏と奥様



地域の特産品を活用したジェラート

★沖縄県内におけるクルーズ船の寄港回数が大幅に増加

沖縄へのクルーズ船の寄港は、2016 年 388 回（前年比 1.77 倍：11 月 20 日現在）と過去最多の見込み。そのうち那覇港は 193 回（前年比 1.68 倍）、石垣港は 96 回（前年比 1.14 倍）、平良港は 86 回（前年比 6.61 倍）、各港とも過去最多の寄港見込み。



写真提供：那覇港管理組合



オペレーション・オブ・ザ・シーズ（16万トン級）
那覇港初寄港及び歓迎式典（2016年10月31日）
写真提供：那覇港管理組合